

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第3回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和6(2024)年11月12日(火) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 3階 研修室1・2・3		
出席者	委員長：大村 恵 副委員長：都築 克章 委員：大地由美子 鈴木 政之 丹羽 浩介 黒田 和秀 林 晴子 岡田 文子 山岡 直子 富樫佐智子 鈴木 睦子 鈴木 康之 平山 啓子 清水 素子 事務局：増岡教育長 富田教育部長 新美教育部参事 岡田教育部次長兼学校教育課長 鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹 本松こども未来部保育課長 林スポーツ課長 橋本歴史民俗資料館長 林学校給食センター所長 二子石生涯学習推進課長 酒井学校教育課主幹 中井学校教育課主幹 長谷川学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 西世古学校教育課主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計30名)		
次回開催予定日	令和7(2025)年2月26日		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過			
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	本日は、ご多用の中ご出席いただきありがとうございます。 定刻になりましたので、ただ今より「第2回 みよし市教育振興基本計画推進委員会」を始めさせていただきます。 初めに礼の交換をします。みなさまご起立ください。 一同 礼 ありがとうございました。ご着席ください。 なお、名古屋学芸大学教授、渡辺桜様、三好丘小学校PTA会長		

	山田竜治様から欠席の連絡をいただいております。また、幼稚園父母の会代表の岡田文子様ですが、本日、園の行事が重なっていることで終わり次第駆けつけられると伺っております。 また、本計画の策定に関わる委託業者として、株式会社創建の大谷様にご参加いただいております。今後も会議資料や成果物の作成などご協力をいただくことになっておりますので、紹介をさせていただきます。 本会議につきましては会議録を取らせていただく関係上、ご発言される際は担当がその都度マイクをお持ちしますので、マイク電源をオンにさせていただいてから話をさせていただきますようよろしくお願いします。
増岡教育長	それでは、本日の会議でお配りした要項に沿って進めさせていただきます。 はじめに、主催者を代表してみよし市教育委員会教育長、増岡潤一郎よりご挨拶を申し上げます。 教育長 挨拶
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大村委員長	ここからはみよし市教育振興基本計画推進委員会設置要綱により、委員長の太田先生に進行をお願いいたします。 大村でございます。 よろしくお願いいたします。 今教育長様からお話がありましたけれども、こどもたちが幸せに過ごせるにはどうしたらいいかというこのウェルビーイングという考え方は今、国の教育大綱にも取り入れられましたし、いろんな施策の中でそこに関わってる人が充実しているかどうか、生きがいを感じているかどうか、幸せを感じているかどうかということを指標として考えようと。それが何かの形で困っているとか、苦しんでいるっていうことがあれば、それに対して、一つ一つ手当をしていこうと。そういった考え方はとても大事であると思っております。今日もご議論いただく教育振興基本計画でも、そうした一人一人のこどもたちが幸せに過ごせるということを一番に考えたいですし、また、実はそのためには、こども自身の声を聞くことがとても大事になってくるのですが、そういったこどもの声をきちんと聞いていくような仕組みを入れ込んでいくことが必要かなとも思っておりますので、また皆様のご意見もお聞きしたいと思います。 それでは議事に入っていきます。 よろしくお願いいたします。 それでは、まず事務局から資料1、資料2についてのご説明をいただくということになっています。それではよろしくお願いいたします。
事務局・多治見	改めましてこんにちは。事務局を務めております、みよし

	市教育委員会の多治見です。よろしくお願いします。 それでは事前にお配りした資料1、2の内容について説明させていただきたいと思います。前のスライドも使いながら説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。 まず、教育委員会の点検評価とアンケートの結果並びに部内で行った分析についてご説明させていただきたいと思います。資料1に関わる内容となります。この点検評価は令和5年度の実績、取組に対しての評価となります。 今年度から中部大学の武者先生に点検評価を依頼しました。主に学校教育分野を中心に評価していただきました。よい評価をしていただいたものは、白丸、課題や改善の視点を与えていただいたものは黒丸で載せてあります。 専門相談員の拡充が図られたことで、当事者には手厚い支えとなっていること。 個別の指導計画の活用状況が100%となっており、現場の並々ならぬ努力と熱意を感じることに。 国による条件整備の充実を待つことなく、市独自で少人数学級や教科担任制の制度を進めていること。 90%のこどもが自分の学校を学校施設が安心、安全、快適であると答えていることについては、他ではなかなか見られない結果となっており、大人たちの願いや温かなまなざしをこどもは感じ、自分たちが大切にされている感覚を得られていることについて高い評価をいただきました。 その一方で、作戦の1から4にあるように、みんなで育てるみよしっ子についてはまだまだ啓発することや浸透を図ることについて、もう少し方法を変えるなどして取り組んでいかないといけないこと、また、こどもが自由にスポーツに親しみ、スポーツ文化を誰もが享受できるような体制整備を検討すること。 こどもをめぐる取組のあらゆる場において、こどもの意見表明、参加の機会を位置づけるようご助言いただいております。 続きまして、愛知教育大学の中山先生からは主に生涯学習分野について点検評価をいただきました。 サンライブに限らず、おかよし交流センターにおいて新たに14講座を開催したこと。 総合型地域スポーツクラブで活動した延べ人数はコロナ禍で活動人数が大幅に減少した時点に比べれば大きく回復していること。 土器・石器づくり、土器型クッキーづくり、灰釉陶器づくりなど小学校4校への出前授業が前年度以上に行われ、学校との連携が進みつつあること。 市内のすべての中学校と2つの小学校に地域コーディネーターが配置されるなど、地域学校協働活動やコミュニティスクールを推進するための土台が着実に進められていることについて高い評価をいただきました。
--	--

	一方で、働いてる世代対象の事業拡大のため、週末、祝日、夜間の利用者のニーズを対話により集めていくことや市民のこどもたちに歴史の課題とその解決策について学習調査研究してもらう等資料館の在り方を検討する取組にこどもたちの声を入れていくこと。 今後は各校の地域コーディネーター同士の研修の場を設けていくことについて助言をいただいています。 今後の全体的な反省点としましては、ご助言いただいた点について教育委員会としても、次年度にどのように生かして、どう取り組んだかという部分を明確にしていかなければならないと思っています。PDCAサイクルを確立していくことを意識していきたいと考えています。 続きまして、資料2、みよしの教育に関するアンケートの結果分析についてになります。 資料2の2ページをご覧ください。 今回アンケート対象としまして、市民、小学校5年生とその保護者、中学校2年生とその保護者、教員を対象として行いました。合計3755人を対象にアンケートを実施しました。回収率はここにお示しした通りになります。 保護者に関しては、小学校5年生と中学2年生のどちらかのお立場で回答していただくように依頼しましたので、重複している部分もあり、実際には1197よりは少ない数になってるかと思います。よって回収率が22%となっておりますが、実際はもう少し高いのかなと受けとめております。 またWebでのアンケートのみとしたことによって、学校の先生方を介しての働きかけができなかった分、保護者の回収率が低めになっている原因ではないかと思っております。 それでは各項目につきまして、1つずつ結果分析について説明させていただきます。 4ページへお進みください。 1、学校教育に期待されていることについてです。 ご覧の通り、丸数字は回数の多かった順位を示しておりますが、項目の上位2つが、いずれも基礎的な知識技能を身に付けること、思いやりや優しさなどの心の教育となっており、市民、保護者、教員の方向性は一致していると言えます。 特に市民については、若い29歳以下のところだけを見ると、これ以外に情報モラル教育も必要だという声が多く挙がっておりました。したがって、市民の中でも年齢によっては求めるものが違っていたかなという印象も受けます。 2、現在の学校教育の課題についてです。 特に道徳教育や心の教育及び個性を伸ばすことについての項目が少しずつ改善されております。道徳教育や個に応じた支援の充実を図ってきたことが成果として挙げられます。特に市民の中でも29歳以下の方については、逆境や困難に直面したときに柔軟に対応する力というよりは、多様な個性や考えを受け入れたり、認めたりする力が必要だというふうに答
--	--

えている方が多かったので、これも市民の年齢層によって、多少違いが見られたかなと感じております。このまま引き続き、道徳教育や個に応じた支援の充実を図っていきたいと考えています。一方、課題としましては、教員の多忙化によるこどもへのきめ細やかな指導が十分ではないという点であり、教員の働き方改革は今後、市としても重要課題として取り組んでいかなければならないですし、小学校での教科担任制について肯定的な意見が多かったことから、こどもたちと向き合う時間を確保できるような施策を検討していきたいと考えております。

3、日々の事業についてです。

小学生では、タブレット端末を使った授業、中学校では友達と話し合う、あるいは観察や実験などの授業が好きという回答が多かったです。学び合いのある授業づくりを重ねてきた成果が見られます。また、コロナ禍で活動が制限されたこともあり、実体験を通して学びを進めたいという思いをもったこどもたちが多いことが伺えます。

課題としては、特に小学校の授業でもっと学び合いのある授業に取り組み、タブレット端末を使った授業と話し合いや実体験を取り入れた授業等を効果的に組み合わせた授業に努めていきたいと考えております。

4、学校施設の安心、安全、快適についてです。

左が令和4年度の数字、右の赤字が今回実施した結果となっています。とても安心、安全、快適と感じる小学生、中学生の割合が高まっております。

計画的に大規模改修を行っている成果がこうした肯定的な意見に繋がっていると思われます。改善して欲しいこととしては、小学生が学校図書館の本を新しくして欲しいが一番高く、新しくはしているものの、こどものニーズに合った本ではないということなのかを検証していく必要があるのかなと感じています。中学生についてはトイレをきれいにしたいが一番回答率が多かったです。

5、部活動についてです。

ご覧の通り、中学生や保護者ともに強く上手になって欲しいという思いは高まっています。しかし、勝ち負けや賞よりも楽しくやりたい中学生の割合も同様に増加しており、多様な考えをもった生徒たちがいる中で、目指すべき指導の方向性を定めていくという難しさが新たに出てきたのではないかなと感じています。一方で保護者は楽しくやるよりももっと部活に打ち込んで欲しいという思いが高いことも伺えます。目標がなく、放課後や休日の過ごし姿を心配する面があらわれているのかもしれない。

6、放課後や休日の過ごし方です。

小学生が特に友達と過ごすことが少なくなっています。習い事に通うからという理由かと思ったのですが、そこまでその数字が伸びていないため、家でゲームやSNS等をして過ごす

	子が増えてきたのではないかと感じます。あるいは、遊ぶ場所がないのか、友達の家を知らないのかといったことももしかしたらあるのかもしれませんが。 7、小中連携についてです。 中学生の入学した後、不安を感じたかの割合が減少しました。その不安の中身を見てみますと、教科によって先生が変わることについては7%であり、主に小学校の高学年で進めている教科担任制の成果が出ていると言えます。 一方、一番多かったのが授業や成績、次いで違う学校の子との友人関係とあるので、授業が難しくなり、ついていけるかという部分に加え、友人関係は大きなウエイトを占めていることがわかります。入学後の学級づくりや対話を通して学び合う授業をしながら、友達と仲間と協働して理解を深めていける関係を構築していくことで、安心して学校に通えるようにしていく必要性を強く感じます。 8、心の教育についてです。 人の役に立つ人間になりたいと回答した小中学生が年々減少傾向にあります。特に中学生のあまり当てはまらないという回答が増えている点が気になります。学校生活をはじめ、多くの場面を通して、人と人とが関わり合う機会や人の役に立つ経験が不足していることも考えられます。そのままのあなたでいいんだよという自分の長所も短所も含めて受け入れてよいことを伝えていくことで、自己肯定感を高める取組の充実を図っていく必要があると考えています。 9、学校教育と地域との連携についてです。 地域学校協働活動を推進していくことがやはり大事であると感じます。教員が望む活動と市民、保護者が参加してもよいと答えている活動とのずれも多少見られます。特に60歳以上の市民になるのですが、協力や参加できることはないとは回答している方が多く、これはどんなことができるかという部分の具体策をこちらの方も周知できていないところがあるのかなと思うので、そういった方々を巻き込んで、一緒に子どもたちを育てていけるような環境づくりが必要かと感じております。 10、みよし市の教育全体の充実度についてです。 令和4年度と比べ、保護者への周知が特に進んだことがわかります。その背景には、各校が地域、家庭との連携を中心に取り組んでいただいていること、協力していただいている関係づくりが進んでいることが伺えます。 11、生涯学習の推進についてです。 市民の生涯学習として、今後勉強、体験したいものは激しいスポーツというよりは、健康維持のための軽い運動が最も多く、その次が情報、コンピューター、語学といった、働く世代、あるいは退職した後も生活する上で身に付けたいというスキルアップ系のものが多く挙がったという印象です。ちなみに年齢別で調べてみますと、20代、30代で一番多かった
--	---

	ものが料理。40代、50代で一番多かったものが、語学やコンピューター。最後、60代、70代で一番多かったのが生活健康（軽い運動を含む）という結果になっております。また、中学生にも、もし時間があったらやってみたいものは何ですかと聞いたところ、料理が一番多く、これは先ほども申し上げた通り、コロナ禍によってなかなか調理実習等の体験が制限されたことが原因としてあるのかなと感じています。 12、読書推進についてです。 本を読むことが大変好き、どちらかといえば好きと回答した市民、小中学生の肯定群が減少傾向にあります。また、図書館に行く市民、小中学生も減少していることから、本以外で情報を得ている実情があったり、ゆっくり読書を楽しむ時間がなかったりすることが考えられます。市民でいいますと、29歳以下の年齢層の方々は67%が図書館に行ったことはないと答えております。今SNS等によって情報を得ることができます。しかしながら、それに依存すると、フィルターバブルとかエコーチェンバー現象といった常に同じような意見ばかりを目にするような状況に陥りやすい場合も危惧されます。図書館に行って、様々な考えや価値観に出会う経験も大切なのではないかなと感じています。 13、教育に関する情報の周知。 学校以外の相談機関について案内チラシを年間4回、小中学校で配布しており、小学校卒業後の相談窓口の周知も行っていることが、知らないの割合が減少している要因となっていると考えられます。引き続きこの割合を増やしていけるように取り組んでいきたいと思います。 14、ふるさと学習の推進1・2についてです。 結果からは少しずつふるさとみよしに関する事柄への周知が進んでいることが伺えます。スライドの3つの黄色の項目、福谷城、石川家住宅、有数の陶器の産地については、いずれも文化財の分野となっており、知らないと回答する割合がやや多い項目でもありました。これとは別にみよしが好きと回答している市民、小中学生は9割以上いて、その多くは、住みやすい、自然豊か、あるいは田舎であるとか、何もないといったことも肯定的にとらえている方もいらっしゃいました。そういった理由がみよしが好きであるという理由の結果となっております。 15、専門的な支援の推進。 教員は不登校、ひきこもりに対する支援、発達の問題、特別支援教育に対する専門的な支援、保護者は発達の問題、特別支援教育に対する専門的な支援と、学校現場で発生する様々なトラブルや複雑化した問題の法的解決に対する専門的な支援、市民はいじめ、そして学校現場で発生する様々なトラブルや複雑化した問題の法的解決に対する専門的な支援ということで、年々多様な価値観が混在する中で、うまく折り合いをつけていくための手段や個に応じた専門的な支援の割
--	---

大村委員長	合が高かったです。すでに支援を始めているものもありますが、実態に合わせた効果的な支援方法を検討していく必要があります。以上になります。一旦ここまででご意見等を伺えればありがたいです。 ありがとうございました。ただいま事務局からご説明いただきました。ご質問、ご意見等ありましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。 私からまず1つ、心の教育のところ、スライドでいくと6ページ目ですね。 人の役に立つ人間になりたいということだとこうなるんですけども、ただ、心の教育のところ、例えば1つ目は人の気持ちを大切にできる人間になりたいという設問に対しては、そんなに下がってないんですよ。役に立つ人間になりたいというところが下がっているということに着目されてますけども、全体として他者に対しての思いやりの気持ちは必ずしも下がってるわけではないだろうというふうに見たんですね。ただ、自分にはよいところがあるとか、そういうところも下がっている、むしろ役に立つ人間になりたいというのは、効力感といいますか、自分にはそういう力があってそれを役立てたいという思いになるので、自信のなさっていいですかね。自分にそれができるんだろうかっていう自信のなさが、役に立つ人間になりたいとか、自分にはよいところがあるってところのやや減少に関わってきてるのかもしれないなと思ってですね、心の教育全体で今のみよしのこどもの自己肯定感を探っていくということを少しやっていただけないかなというふうに思うんですね。ここだけ取ると、何か他者に対して冷たくなっているんじゃないかと思ってしまいがちですが、必ずしもそうではないような気がいたしましたのでいかがでしょうか。
事務局・多治見	ありがとうございます。今おっしゃられた通り、みよし市では、どの学校でも学校評価ということで、同じような問いをお願いしているところがあります。また、全国学調のところでも、自分は役に立つ人間になりたいという設問が入ってきているところもあったので、それも経年で追っていけるかなという部分で、これを注目してたところもありましたので、今回それ以外の部分もとりましたので、相対的に見て判断していけるようにしていきたいなと思います。
大村委員長	はい、ありがとうございました。ついでにもう1つ、学校教育の中で何を大切にしなければいけないかというところで、教員の回答が少し気になりました。スライドではなく、アンケートのまとめの6ページになるんですけども、6ページの下を見ると学校でのこどもの指導において大切なこと、いわゆる指導観、先生たちがこどもに対する指導についてどういう思いをもっているかということなんですが、令和4年と令和6年を比べると、非常に6年の数値が下がっていて、非常に低いです。これは複数回答というところで、もしかして令和6年

事務局・多治見	のときには、その回答数を制限したりしていたんでしょうか。令和4年はいくつでもつけてよくて、令和6年は3つとかそういう制限をつけていたのかが気になったので、いかがでしょうか。 ありがとうございます。全部の設問に共通しているのですが、令和4年度のときは当てはまるものいくつでもいいよというような設問にしておりました。しかしそれだと、本当に必要なことというのがわかりづらいという反省もあって、今回令和6年度については多くて3つまでというようなことで、どの設問も聞いてきたので、その辺の違いでパーセントが下がっています。
大村委員長	ありがとうございました。その設問の方法がよかったのかどうかということとはちょっとありますけども、例えば6ページのところを見ると、3番ですね、繰り返し学習などで基礎基本を身に付けさせることが大事だと答えた方は16%しかいなかったとかですね。7番ですね、一人一人の個性を伸ばすような指導を充実すること、これも15%なんですね、9番、地域との関わりを通して、市や地域に愛着をもったり、認めたりするような機会を充実させることはわずか3%っていうことなんですよ。だから今お聞きしたように3つしか回答できないというところで選ばれなかったのだろうとは思いますが、しかし、他の指導の大切さに比べると著しく低いっていうことが、これは先生たちの間で今働き方改革の中で、もしかすると優先順位がつけられて、これらの低い回答のところにはあまり手がかけられなくなってしまったとするとちょっと問題かなというふうに思ったんですね。それは保護者の方の願いの、もっと一人一人に関わって欲しいというようなことがあったと思いますけども、その辺が実態といいますか、その現場ではどういうふうに感じられているのかなっていうのが気になったのですが、もしわかれれば教えていただけますか。
事務局・多治見	ありがとうございます。まず今おっしゃった通り、3つしか選べなかったというところで、大事にしないといけないことはわかっているものの、回答できなかったのかなというふうに感じておまして、本当に決められた時間の中でやっていきたい思いはあるけれども、先生方も今どれを優先してやっていったらいいのかとか、日頃の指導の悩みとかがありながら毎日を過ごしているので、その辺のところでも上手く整理ができずにいるのかなってところもあるので、こういったところでも働き方改革に繋がるんですけども、市としても保護者と思いがあ程度共有できるような指導体制は考えていけないといけないと感じております。私が分かる範囲ではそれしか言えないです。すいません。
大村委員長	ありがとうございました。次からやはり3つに絞らずに大事だと思うのは全部チェックしていただいた方がより先生方の指導観がつかめるのかもしれないというふうには思います。

富樫委員	た。ありがとうございました。皆様からいかがでしょうか。 文化協会の富樫と申します。調査の回収率のことで、私が一番気になったのが保護者の調査の回収率が22%っていうことについて教育委員会はどう考えてみえるのか。これでいいのかどうか。あるいは保護者のこういうものに対する考え方が少しずつ昔と変わってきてるのかどうか、ちょっとお聞きしたいなと思って質問させてもらいました。
大村委員長	はい。ありがとうございました。先ほど少しご説明もありましたけども、補足とかございますでしょうか。
事務局・多治見	ありがとうございます。この保護者の22%を含めて全体で54.6%という回収率になりました。今回ほぼWebで取ってるところもあり、市民だけが紙とWebを選択してよかったっていうことになったんですけども、一応40%を超えていれば、全体の数字として、内容としてはとっていいものだというふうなことも教えていただいておりますので、保護者の22%というのは課題なんですけれども、先ほど申し上げた通り、小学校5年生と中学校2年生の保護者に対して、きずなネットという機能でWebアンケートをお願いしたんですけども、教育委員会から直接ということだったので、最初1回目お願いしたときには、22%もなく、本当に少なかったです。回答数が268になってますけど、実際には100ぐらいだったかなという記憶をしております。したがって、もう1回リマインドという形で送らせていただいて、ようやくこの数字になったということだったので、いかに今まで先生方が働きかけてくださって、保護者の方が答えていただけたということがよくわかったので、今後、保護者に対してとっていくときには、やはり学校の先生方にもお願いしていかないといけない部分もあるのかなと感じておりますし、何とか保護者の方だけでも40%はやはり取れるようにしていきたいと考えております。以上です。
大村委員長 都築副委員長	はい。よろしいでしょうか。その他いかがでしょうか。 中学校代表の都築です。お願いします。先ほど資料の6ページで大村先生が言われた複数回答のところですね。私も同感で、私が教員だったらすべてに○をつけちゃうだろうなって、ちょっとこういう数値の違いが出てしまったのかなあと思いますので、再度ですね、教員の現場レベルでも何がこどもにとって指導が大切なのかっていうのを再検討する必要があるなと、じっくり考える必要があるなと思いました。もう1点、8ページですね。市民の回答も気になりました。複数回答ということで、令和4年度、6年度とかなり数値の差があるのもあって、市民の方々が考えられているこどもたちに身に付けさせたい力、あと保護者、教員が期待することということで、特に何事にも挑戦しようと1歩踏み出す力っていうのが、数値的には結構多いので、市の目標にも合っているなと思うのですが、これもやっぱり3つまでとかいうことでやられたと思うので、これも広く意見を伺うということで複数回答にすれば、そんなに変わらない数値、結果が出たのかなとい

大村委員長	うことを資料からそう感じました。以上です。 はい、ありがとうございました。事務局から何かございますか。よろしいですか。その他はいかがでしょうか。 また、私からになりますけども、こどもたちの願いというのが非常に印象的で、7ページですね。学校に期待すること、これも小学生5年生も中学2年生も同じなんですよね。楽しい学校にしてほしいってということと、それから友達と楽しく過ごす時間が増やして欲しいと。特にこの友達と過ごす時間が大事だっているのは分かるんですが、そんなに友達と触れ合う時間が少ないと思っているのかというところで少し、実際の状況を見たいっていうか知りたいっていう思いがありました。これは学校教育の授業への期待のところでも、10ページ目ですね、どのような授業が好きかっていうところで、友達と話し合う授業が非常に高いですね。その学び合いの実践というのがどれぐらい進められているかっていうのは把握してないんですけども、対話的な授業が行われていて、それがこどもたちにも支持されているということだと、非常によい実践が行われてきてるのかなっていうふうに思いますし、そうしたこどもが仲間と一緒に学びたいっていう気持ちをどう学校の中で実現していくのかっていうのは、今後も一緒に大事なことなんだなというふうには思っていました。これは感想です。他皆さんいかがでしょうか。よろしければ次のご説明の方に移ってよろしいでしょうか。また各グループで班の議論していただくときに、アンケートについての感想等もまた考慮していただいてもありがたいかなと思っています。それではご説明の方お願いいたします。
事務局・多治見	みよし市の目指す将来の都市像について見ていきたいと思います。市長のマニフェストには、目指す都市像として、人が輝き、挑戦し続けるまちづくりが掲げられています。その実現のために教育に関わる分野として、少人数学級の推進と小学校教科担任制を拡大すること。学校における様々な課題に、より適切に対応するため、スクールロイヤーの配置とスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置拡充をしていくこと。地域全体でこどもの学びや成長を支えるコミュニティスクールを推進し、学校を核とした地域づくりが示されています。 大東建託株式会社が行った居住満足度調査の結果というのが10月31日に発表されていたので、参考までに紹介させてもらえたらと思います。これについては、あなたは現在幸せですかという問いに対して、幸せだと答えた割合を町の幸福度ランキングとして表したものになります。みよし市については東海地方に限られた話になるんですけども、幸福度ランキング第2位という結果が出ておりました。今回、資料2にあるアンケートでも、住んでいるまち、みよしのことが好きですかに対する肯定的な回答は91%となっており、やはり同じような結果になっているという感じを受けております。

ただ、今、青で囲ってるところが気になる点になるんですけども、住み続けたいですかという問いに対しては、実は63位まで下がってしまいます。項目としては、誇りがあり、愛着があるっていう部分がどうかっていうところなんですけども、このあたりが非常に低くて、誇りがあると答えた割合でいうと41位まで落ちるというところなので、このあたりが1つ、今後考えていく新計画の中でも無視できないところかなと思いましたので紹介させていただきました。

ちなみにこれが住み続けたいまちランキングのトップ20になるんですけども、先ほど1位が日進市、2位がみよし市だったんですけども、その2つの市は入っていないくて、長久手市が2位に入ってくるという結果が出ておりましたので、長久手市の取組というところも1つ参考になるのかなというふうに思っております。今回のアンケートの自由記述のところでも、みよしのことがどちらかというところ好きではないと答えた方の理由が、やはり施設や遊び場が少ないとか、交通が不便といったところが多く挙がっていたかなと思いますので、例えば高齢になった場合にそういったところが少し不安要素になっているから、住み続けたくないと感じておられるのかなっていうこともふと思いました。これは推測にすぎないのでしっかりと調べてみないといけないかなと感じております。

続きまして、教育振興基本計画の上位計画にあたります、みよし市総合計画の将来像について見ていきたいと思います。

先ほどの話に繋がるんですけど、ここでは、みんなで育む笑顔輝く、ずっと住みたいまちというふうに掲げているので、やはりみよし市としてもずっと住み続けるというところを大事に取り組んでいくということになるかなと思います。

こどもから高齢者まで誰もが健康で明るく生き生きと暮らすことのできるまち、そして誰もがずっと住み続けたいと思えるまちを目指して、市民と行政のそれぞれが、自分ができる役割を担い、市民の皆様と一緒にみよしの未来を築いていく方針がここでは示されております。

以上のことから、新計画に向けて大事なキーワードを少し挙げてみたいと思います。

ここに挙げた通りになるんですけども、長所も短所もあるのが自分であり、それがいいんだということを受入れること、相手意識を持ちながら、人と人との関わり、楽しさや喜びを感じる経験を積むこと。また、個に応じたきめ細やかな指導をもとに自信をつけ、集団の一員として輝き、仲間と協働しながら成長できることが目指すべきところかなと感じております。

ここからはお配りしました資料3の内容になります。

これまで説明させていただいた流れを踏まえながら、現行の計画を見ていきます。

まずは、基本理念についてです。今は学ぶ楽しさで人と人

	とをつなぐとなっております。第1回教育振興基本計画推進委員会において、推進委員の方々からいただいた意見としては、社会情勢の変化や都市化の進展などにより、ずいぶん前から社会問題として挙げられておりましたが、このコロナの影響によってさらに加速したことから、地域や近所づき合いをはじめとして、大人同士の繋がりが希薄になっており、その結果、近所つき合いや地域でこどもを見守る機会が激減し、近所のこどもの名前も知らないような事情が少しずつ見られるようになったのではないかなということでした。人との繋がりが希薄し、その結果、悩みを誰にも言えず、1人で抱え、孤立している市民の方もいらっしゃるのではないかなということをご心配しております。また、コロナ前と比べて、図書ボランティアの人数や生涯学習団体の数が減少することもあり、人と人とが交流したり、助け合ったりする関係性が少し揺らいでいる現状があるのかなと思います。 また、こどもたちにとっても仲間と関わり、ともに成長する機会が少し失われてしまったことで、仲間を思いやる大切さや仲間同士で折り合いをつける力、それから遊びの中で養われるべき社会性等を身に付けることなく成長してしまっている点もあるのかなと考えております。学校現場での人間関係における様々な問題も、そういった部分から表出している現状があります。 今回、実施したみよし市の教育に関するアンケートから見てきた、市民、保護者、教員が共通して描く理想像は思いやりと優しさを持ち、安心できる人間関係を築くことで、一人一人が笑顔で生き生きと過ごすことができる姿であり、そのためには、小中学校の教育活動をはじめ、スポーツや文化活動など、あらゆる機会をとらえて、みんなで一体感を感じることのできる人と人とのつながりを生み出す必要があると考えます。 また、将来の予測が困難な時代に未来に向けて自らが学ぶ姿勢であったり、社会の創り手となることであったり、持続可能な社会を維持発展させていくということで、そういった人材を育てることが求められています。 今後は日本の人口も減っていくことが予想されます。となれば、みよし市に住む今多くの外国にルーツのある方もいらっしゃいますが、そういった方々とも協働し、多様な考えや価値を尊重していくこととともに、言葉の問題や文化の違いから、日常生活や学校生活に苦勞している方もいるため、個別に支援もしていく必要があると考えます。 そんな中でも、人それぞれが自己肯定感を高め、幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会も幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じて、心の豊かさを表すウェルビーイングを向上させていくことは大きなテーマとなるかなと思います。 これらのことから、これからのみよしの教育に最も必要と
--	---

	されているのは、学校だけでなく、家庭と地域が手を携え、人と人が繋がり高め合うことで、大人も心豊かに成長し、生きがいのある暮らしや社会を実現していくことであると考え、今回、A案とB案の基本理念を提案させていただきたいと思います。この後のグループ協議において、A案がいいか、それともB案がいいかということもそうですが、A案にしても、もう少しこういった言葉が入れたほうがいいんじゃないか、B案にしても、もう少しこういった表現にしたほうがいいんじゃないかといったことも踏まえて、ご意見いただけると大変ありがたいと思っております。 続いて、目指す人間像についてです。 現行の計画では、生涯にわたって自らを磨き続け仲間とともにふるさとみよしを築き、よりよい時代を創り出す人となっており、一文として表現されております。第1回の教育振興基本計画推進委員会においても、第2回でもそうでしたが、推進委員の皆様方からは、変化の激しいこの先10年を生き抜くために必要な力についてもご意見いただいております。 先ほどの基本理念を踏まえ、教育を通じて育てようとする人物の理想像を、1つは学校教育、1つは社会教育、1つはそれを支える家庭・地域教育というような感じで分けて、箇条書きでこのように表していったらどうだろうかということを提案させていただきます。 これについても、この後のグループ協議でこのように3に分けて、人間像を表すことについてご意見いただけたらなと思っております。 続いて、3本の柱についてです。 現行の計画ではここにある通り、3つの柱でつくられております。ただ柱という表現ですが、なかなか3本が並立してないといったご意見もいただきましたので、あえて、基本目標という言い方に言い換えて設定するのはどうかということをご提案させていただきます。これについても、この後のグループ協議でご意見いただけたらなと思っております。 また現行プランは、全体像をこのようなイメージ図として表しております。これについても、基本理念と目指す人間像、3つの柱の繋がりが少し分かりづらいといったご意見もいただいていたことや、共育や協育という言葉を使っておりますが、ここには出てこないというところもあったので、このような形ではなく、違う形で提案できればと思い、次のようなイメージ図を作ってみました。 一番上に基本理念を書き、今回はA案を載せてありますが、共育や協育という言葉も入ってくるような感じで作っています。その下に、市が市民に目指すべき像を3つ設定させていただいて、その実現に向けて、3つの基本目標がライフステージごとに設定されていくという形を取ったらどうかと思い、提案させていただきます。 なお、今回0歳から3歳の期間については、こども未来部で
--	--

	こども計画を作成しており、それをもとに進めていくということもあったので、今回については、教育振興基本計画と今後連携していくという形で、中に含めておりません。 最後になりますが、参考資料ということで、皆様方にお配りしていますが、この3つの基本目標までが決まってきた後に、その基本目標を達成するために、体系別全施策がこのように繋がっていくというイメージになります。 基本施策のところに成果指標を置き、施策の部分から重点策を設定していくようなイメージで今は考えております。これについては、本日の議題ではありませんので、今年度中に新計画の骨子が固まりましたら、来年度に内容を検討して、詰めていくものになる予定です。
大村委員長	ありがとうございました。それでは、ただいまの説明について質問、あるいはご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。ご議論はグループでまたしていただくということになりますけれども、よろしいでしょうか。それでは時間も来ておりますので、グループでの協議の中でまた疑問点などがありましたらそこで協議をいただきたいと思います。
事務局・多治見	それでは4の協議事項に入りたいと思います。まずは協議の方法について事務局からご説明いただきます。 お願いします。この後、今お座りの方々と話し合っていたきたいと思います。話し合っていたきたいことは、1つ目が、私たちが先ほど分析したアンケート結果について、先ほどもご意見いただいたんですけども、それについてまたもう1回見ていただいて、こういったこともいえるんじゃないかなとか、お気づきの点をお話いただけたらなと思っております。20分程度お願いしたいと思っております。 そのあとに、資料3で説明させていただいた、新計画の基本理念と目指す人間像と3本の柱について、30分程度ご意見いただけたらなと思っております。関係課の担当もグループの輪に入り、質疑等への対応をしますので、よろしくお願いいたします。また、学校教育課の職員が各テーブルにつきますので、話し合いに取り回しや記録をさせていただきたいと思っております。3時15分になったら、グループ協業会議開始できたらなと思っておりますので、よろしくお願いします。なお、発言されるときは、会議録を取る関係上、最初にお名前を言っていただいてからご発言いただけますようよろしくお願いいたします。以上です。
大村委員長	ありがとうございました。それでは進め方についてよろしいでしょうか。
増岡教育長	アンケートの結果について最初にお話し合いをしていただくときに、実際には今回はまずアンケート用紙に答えてもらったので、この後詳細な調査をしていくんですけども、マンパワーも限られているところがありますので、こ

大村委員長	こをもっと詳しく知りたいよねっていうところも皆さんの方からお声を上げていただけると嬉しいなと思います。 例えば子育て支援に関して、今回は放課後児童クラブに行きたいですか、なんていうのも試しに聞いてみようということで今回取り入れたり、他の生涯学習の方で新たに設けたりした項目もたくさんございますので、そういうところでもうちちょっと詳細な調査が必要じゃないかと。実はさっきの放課後児童クラブの件については、こどもたちの76%が実際には家で過ごしたいと答えておるということなんですけど、通ってる子以外の子にも尋ねているもんですから、これについてはやっぱり自分たち、今通っている子に絞った分析をしていかないといけないよねっていう話が出てくるわけです。そんなところをお気づきの点がたくさんあると思いますので、ご指摘いただけると嬉しいです。以上です。 はい、ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。それでは15時15分まで休憩といたします。15分から開始いたしますのでご準備ください。
事務局・多治見	＜休憩＞ ＜Aグループ協議＞ それではAグループの司会をさせていただきます、学校教育の多治見です。お願いいたします。それでは発言されるときはそこにレコーダーがありますので、近くにお持ちいただいて最初にお名前言っていただくと大変助かりますので、よろしくをお願いいたします。最初の20分間が資料2のアンケートの内容になります。先ほど教育長の方が申し上げましたが、もっとこういったここの調査もう少しの方がいいんじゃないかとかいう視点、もしくは全体を見られて、気になる点とか、気づいた点を教えていただきたいと思います。それではどなたからでも結構ですけど、どうですか。
都築副委員長	中学校代表の都築です。先ほどのご意見質問にもあったんですけども、6ページ、学校の教育現場で教員が普段、こどもの指導において大切なことっていうことで、回答数を絞ってね、やっているんですけど、実際に多治見先生がヒアリングをしていただけるっていうことだったので、本当に現場の教員がどんなことをこどもの指導において大切なこと、全部だと思いうんですけど、特についていうことをいろいろ聞けるといいかなと思います。特についていうことで今回は51%と55%の2番と4番が多かったんですけども、それ以外にも結構ですね、8番なんかは半減していますもんね、令和4年と令和6年で81%から49%、これも大事に思っている教員も多いと思うので、そういうのをヒアリングから詳しく聞き出して、計画の中に盛り込んでいく。あと、8ページの市民についても、市民の皆さんがこどもたちに必要な力なんと思っているのか、時代が

	こういうふうこれから変わっていった必要な力と、思っていることが、数値を半減しているんですが、概ね思っていることは変わっていないという分析だと思いました。あとは13ページ、先ほど教育長も言われましたけども放課後児童クラブに通うことができるとしたら通いたいかということで、通いたくないとかあったんですが、今実際の放課後こども教室っていうのも開設しています。そこでのこどもたちの声、参加度とかそういうことも聞けるとこれから放課後児童クラブを今後、こども教室、あと児童館や公民館も本当に施設が充実しているぐらいしていると思うんですよ、みよし市内は。また逆に少子化に向けてそういったのを変えていくっていうことも大事なんだと思いました。私からは以上です。
鈴木睦委員	今の質問の中でわからなかったんですが、こども教室っていうのは、今まであったんでしょうか。今の児童クラブとは関係なくて違うんですか。
事務局・多治見	別です。
鈴木睦委員	それも児童クラブなんですか。
事務局・多治見	放課後こども教室といいます。
鈴木睦委員	ということは、今の4年生以上は部活がなくなったので、みんなができるようにという意味ですか。
事務局・多治見	それが放課後こども教室です。
鈴木睦委員	はい、わかりました。
山岡委員	保育園会長の代表の山岡です。先生が先ほど最初におっしゃられた、6ページの教員の方が、優先して考えられているっていうので、令和4年とだいぶ差は出ているんですけども上の方の①の基礎的な知識や技術を身に付けさせるっていうのは75%で結構高いのに、次の質問では他の項目の方に目がいつているという矛盾点は何なんだろうなっていうのは疑問に思ったのですが。
事務局・多治見	話題になっている通りもう少し詳しく教員に聞かないといけないかなと思うんですけど、上と下では項目と設問が違うので、山岡さんがおっしゃる通り、こちらの方が優先的に思えたのかなと思うのですが、さっき答えたから違うように答えようって思ったか。そこは分析しないと分からないところですよ。
山岡委員	もしくは、私が捉えたのは下の質問は学校でのことなので、その基礎的な繰り返しやるようなことは、家でも復習はできるから、何か学校でやれることってやはり先生方も忙しくてできなくて、残りは家でも反復学習してきてねっていう、なんだろう、そっちに優先順位が変わってきているのかなっていうのを感じ取れたんですけども、聞いてみないとわからない話ですよ。以上です。
都築副委員長	今の山岡さんの素朴な疑問というか、私も考えると、基礎的な知識や技能をしっかりと身に付けさせることで、非常に%は高い。ただ、繰り返し学習などで基礎・基本を身に付けさせることは62%から16%まで減っている。教員はどう考える

事務局・多治見 山岡委員 清水委員	かって言ったら、基礎的な知識や技能をしっかりと身に付かせるためには、やはり、こどもにとって興味関心をもっているような授業作りをしないといけないって思っていると思うんですね教員は。だから、楽しく分かりやすい授業をすることってというのが、パーセンテージで高くなっているのかなっていうことを思います。もちろん、繰り返しやること、基礎・基本を身に付けさせることは大事なんですけど、こどもたちに基礎・基本を身に付けさせる授業はやはりこどもたちにとって楽しい分かる授業を教員は考えているなって思います。以上です。 なるほど。 分かりやすい。 私はすごく大事なことは、自己肯定感、自己有用感を高めるっていうことだと思っていて、その自己肯定感っていうのはさっき言われていた、よいところも、悪いところっていうか自分を認めるっていう、自分の子育てで困っているいろいろ調べたり読んだりしたのとか、あとは体験で今大学生と高校生がいるので思ったんですけど、自分は大丈夫だっていう気持ちがあると、個人差はあると思うんですけど、いつかは何かやる気が起きるっていうか、そういうふうに思っていて、そういう気持ちが根底にあると、ずっと学び続けられるっていうか、勉強だけじゃなくても何か自分で向上していけると思っています。心の教育の、15ページの5番が、自分にはよいところがあるっていうのは、ここもあるんですけども、こどもたちが今の自分の状態をどういうふうに思っているかっていうか、何か自信をもてる場所があるとか、自分の存在を考えて、表せるような質問が、具体的には分からないですけど、今どれぐらいの子が自己肯定感をもっているというか、それを測れるような質問があるといいかなっていうか。その子によって、ほっといても自信もあって頑張れる子もいれば、なかなかエンジンがかからなくて、学校のペースにもついていけないっていう子もいると思います。そうすると、学校の授業でも何でもが1人1人に勉強だけじゃなくても、1人1人の今の状態をしっかりと把握することができるような、いろんなやり方を考えていけるかなと思っていて、とにかく自己肯定感が全て、元になっているなと思いました。それがしっかりしてれば、この基本理念が全部叶えられるなと思いました。
事務局・多治見 林委員	園からの繋がりも大事ですね。 すみれ保育園の林です。自己肯定感っていうのか、自分が好き、今のままの自分でいいんだよっていう本当にそういうところを大切に保育はさせていただいていると思うので、本当にこれに参加させていただいて、これで保育園の役割は何かになって思ったときに、こういうところの種まきをするところが保育園の役割なんだなっていうのを改めて今感じているところです。でも本当に自己肯定感は本当に基礎の基礎なのかなっていうのは日々感じております。

事務局・多治見 清水委員 都築副委員長	心の教育の聞き方っていうところがもう少し何か。そうですね、ちょっと思い浮かばないんですけど。 自己肯定感って自分で育むというよりも、やはり他から認められる必要があり、家庭での教育をまず突き詰めれば、親の育て方です。認めてあげるとかが大事だと思うんですよ。市民とか保護者に、あなたのお子さんに自己肯定感というとり方が難しいかもしれないけども、自己肯定感を育むような育て方をしてますかっていうのも大事だと思いますね。学校で大事にするけど、家庭でもっと大事にしてほしいですね。親には、しかも小さいときから。でないと自信のないことが、つい頼ってしまったり、自立が遅れちゃったり。
林委員	今、小学生や中学生で、自分が好きだっていうふうに感じてるお子さんがどれぐらいいるのかなっていうのは、思うところはあるのかなと聞いています。
都築副委員長	自分のこと好きですかって、もうちょっとストレートかもしれないけど。
鈴木睦委員	もう少し具体的に自分がこういうところが気に入らないとか、自分を見つめる、好きですかと一緒に。いいかなと思うのと、みよしでこどもを見ますと、みよしがふるさtoになりますよね。そうすると、そこで親が、みよしでよかったと、保育園とか、そこでいろんなことを学んだと、親が納得してこどもにその気持ちが伝わって、本当に大事な幼児のときは親が安心することがすごく大事なことだと思います。
山岡委員	ダイレクトに自分のこと好きかって聞いてもいいし、プラス自由記載でどんなところが好きですかを書いてもらう、認められた経験がありますか、どんなことで認められましたか。給食を全部食べられて先生に褒められましたかとか。認められたというと難しいかも、褒められたことはありますかとか。そうすると、給食でこういう接し方をしたら、こどもは喜ぶんだとか、分かりやすいというか、何か率直なこどもの素朴な意見って大人は見落としがちなんで、こんなことで褒められると喜ぶんだっていうのが、分かるといいなと思いました。
清水委員	こどもの質問は、大人は市民にも確かにこどもを褒めていますかとか、認めていますかとか、そういうのもあるといいかな。認められたりとか褒められたりすると、やる気になって自分の肯定感が高まるし、やらなきゃいけないことも多いから宿題をやったのかとか、あれをやったのか、結構怒られることも多いと思うんですけど、学校に行っているだけでも偉いよとかそういうふうに、ちょっとしたことで褒めているとかそういうのを聞くのもいいかと思います。
都築副委員長	やはり褒めることもね、育てるときに大事だし、やはり叱ることっていうのも大事ですから、褒めると叱るのバランスが取れた子育てをしてますかとかね。褒めてばかりでもあれだし、叱ってばかりでもいけないし、そこら辺は難しいですけど。

林委員	ちょうど、園便りのところで、研修を聞いた後に、ありがとうございますは最高の褒め言葉だよっていうのを載せたんですよ。やはりありがとうございますって、なかなかこどもに言わないことがあり、でもありがとうございますという意味の中で、やはりこどもは人の役に立ったなとか、そういうことも感じるっていう話があったかなと思うので、質問の中にこどもにありがとうございますと言っていますかとか、そういう具体的な質問があってもいいのかなって。なかなかありがとうございますって当たり前のことやっても、言ってくださいねってこっちは言うんですけど、なかなか自分のこどもに言ってるかなって言ったら、なかなか言えてなかったなと思うので、感謝の気持ちとかそういうところをこどもから言われるだけじゃなくて、こどもにもちゃんと伝えてるかっていうような問いもあってもいいのかなって感じました。
都築副委員長	アンケートをすることによって親がどきっとしてそう思えるかもしれないですし。
事務局・多治見	そうですね。どこかアンケートを協力していただける園があればありがたいですけども。今、いろいろ方々から協力してもらったり、褒めてもらったりとか声かけてもらう機会を増やすために、市民の方々にどれだけ、園とか学校とかに入っていていただいて関わっていただくかっていうことが一つあると思うんですけど、今回気になることが市民の方々があんまり協力できることがないと回答していらっしゃるんですけど。
鈴木睦委員	市民の方っていうのは今回の中学2年生の親ということですか。
事務局・多治見	別です。
鈴木睦委員	別の話ですか。そうですか。私、いきいきクラブに入っているんですが、黒笹小学校に和の体験のことで竹馬作りを行ったり、折り紙をやったりして触れ合う、北中学校の生徒さんが黒笹公民館にみえて、いきいきクラブ、お年寄りと交流するというのがすごく盛況でして、若い人に会って風船バレーボールしたり、トランプをしたり、ゲームをしたりする時間があるんですけども、中学校の生徒の様子がよく分かったんです。向こうの中学生も分かったと思います。だからそういう交流が少しでもあるということがお知らせしたかったです。
事務局・多治見	その話がどこからか聞こえてこないと駄目ですね。本当に住んでみえる方がそういうのがあるんだって。
鈴木睦委員	いきいきクラブの組織に、学校側から依頼がある。それでそこで受ける人がそこに。
事務局・多治見	やり方としてはそういう方向でもいろんな方に協力して入っていただくことは可能であると。
鈴木睦委員	そうだと思います。あとはボランティアで家庭科の授業に行ったりしてやってますよね。小学校の方に。若いお母さんも図書のボランティアとか、人数は分からないのですけどもそういう話は聞きます。

事務局・多治見 林委員	園とかってボランティアが入ったりするんですか。 ボランティア自体は園に入ってもらってということはないかなとは思いますが、私もコロナ禍で本当に地域とのつながりがなくなってしまって、なるべく地域との関わりをっていうところで、今年度すみれに來たときに地域の方に声をかけて、なるべく交流ができるようにって言って、今みたいな感じで今度、1月にいきいきクラブの方と交流ができるように計画をさせていただいています。この前、三吉小学校の学校運営協議会に行かせていただいたときに、本当にそのような地域コーディネーターの方が間に入っていて保育園との交流ができたもんだから、その関係で学校でそれとできるといいみたいな話になって、煮詰まっではないもんだから、今回は保育園といきいきクラブとやらせていただくのですが、その運営協議会の中に福祉施設の方もみえたもんだから、本当に学校で地域のいきいきクラブの方とか、保育園児あと福祉施設の方とか地域の方が来て何かできるといいねってというような話は、三吉小学校で話題に上がっていたので、そんな取り組みがあるとまた違ってくるのかな。
事務局・多治見 林委員	地域という点では、コミュニティスクールを進めていくことで繋がりがいろんなところで出てきますね。 そうですね。出てくるのかなっていうのはすごく思いました。
事務局・多治見 都築副委員長	中学生が保育園に行ったりしていますか。 家庭科の授業の一環で、あと中学生も夏祭りとか行政区のフェスタとかね、いろんな行政区でボランティアとしてお手伝いをよくしている。手伝ってくれた生徒を行政区の区長さんの代表の名前で推薦してくれます。三丘賞といって、今日もありがとうということで表彰したんですけども、こどもたちが本当にもらって一緒に写真撮るときに、にこってするんですね。あれも自己肯定感に繋がる、自己有用感に繋がるなと思って、いいなと思って結構やっていますけど。いきいきクラブっていうのは市でどこにもある体制、組織ですか。行政区ごとにいきいきクラブはあるものですか。
鈴木睦委員 都築副委員長	全部はないんですよ。 組織の人数としては多い、少ないやっぱりありますよね。要は老人クラブ。北中は結構長いことやっているんですよ。北中生が敬老会に行って何か出し物をしたりして、そういう交流はいいなと思って。
鈴木睦委員 都築副委員長	そうですね。でもだんだんと運営してる人員が高齢化になっていまして。停滞気味なんですけどいきいきクラブは、若い人が入ってこないの、でも人数は多い所と少ない所と。 だからいきいきクラブにも入りたくないっていう老人の方っていうか、高齢の方も現実にいるってことですね。
鈴木睦委員 都築副委員長 橋本歴史民俗資料館長	多いですね。 多いですか。 働く年齢層が高齢化してるので。芸術とか文化もそうです

都築副委員長 橋本歴史民俗資料館長	けど、そっちに地域の方に入っていくっていうのは難しい。 確かに60、65定年でこれからさらに、減っちゃいますよね。 いきいきクラブの会員が新しい人が入ってないっていうのはよく聞きますね。
都築副委員長	そういう人たちと交流を盛んにすることが、ふるさとみよしを愛することであって、ずっと住みたいと思うと思うんですよ、こどもが。こどもってやはり核家族で、本当にあのファミリー中心でやっているけど、そういう地域とか高齢の方でも、これから生涯教育とか、もっと大きく言えば、学校教育じゃなくて社会教育をもっと充実させる、大人も学ぼうよ。こどもだけじゃなくて、一緒に。そんな取り組みが広く出てくれば、ずっとみよしって魅力あるまち、住みたいくなるかなって思うんですけどね。大人も学べる場、確かに忙しいのは分かるんですけど。
山岡委員	いきいきクラブと同じ感じで、中学生はジュニアクラブ、小学生はこども会がどんどん縮小されて、保護者がボランティアでどうしても役員をやるんだけど、それもなくなって、どんどん減らして、そうすると行事も減って地域でやっていることがもうどんどん減っている現状で、かといってこれをまた増やす方向にはならないじゃないですか、PTAと一緒に。そこがなくなると本当に学校を母体として、ボランティアに休みの日に行ってもらうとかをもっともっと増やさないと、地域を主体としたものは難しくなる。
都築副委員長	学校が核になるんですよ。将来的には。
山岡委員	それしかないっていうか。
都築副委員長	学校が核になって地域の社会教育になっていくのかな。
清水委員	我が子が学校に行っていたりとか、いきいきクラブに属していたりとか、どこかに属していてつながりがある人だと、何とかして参加できたりすると思うんですけど、それ以外の人がすごいいっぱいいて、そういう人たちは学校に協力って言ってもどうしていいか全く分からないと思うんですけど、そういう人たちは、例えば私も犬の散歩を毎日していて、いつも会う人とか、いつも見かけるこどもとかがいて、それで知ってる子なんかもあるんですけど、実際にそういうことはないけど、例えばその子がおかしな様子だったら、あれ大丈夫かなって思って、きっとどこかに伝えとか、息子の部活の試合で一宮に行ったときに、朝だったんですけど、雨の日で、朝の駐車場の室内でしたけど、何か片隅に座っている女の子がいて、明らかにおかしくて、おかしいと思って事務所の人に言ったら、連れて行ってケアしてくれたと思うんですけど、いろいろ市民の人がいろいろなところに意識をもっている。何かおかしいなと思ったら、どこかに伝えとか、知らんふりをせず、みんなで見守っていくっていう意識があれば、地域がつながっているっていうことになるかなと思って、その意識作りを市民にどうやってしていけばいいかはちょっとわからないんですけど、実際にそういう学校とかの活動に

事務局・多治見	入れない人もうそういう意識でみよしを守るみたい。こどもだけに限らず高齢者とかでも、そういう意識をもつように。何とかなっていけるといいなと思うんですけど。 ありがとうございます。またその辺も考えていかないといけないかなっていうことで、一応今、共育・協育っていう言い方をして、少しずつ広まってきてはいるので、それをもう少し具体的にこういう活動で、今やっていることは実は協力していただいていることだよっていうことを気づいていただけるような方法を考えていかないといけないかなとは思っているところ。
都築副委員長	難しいですね。市民の周知、保護者であればね、絆ネットっていうのがあるけど、みよし市でLINEができました。でも公式LINEですよって言うてもまだまだ入ってない人が多い。もうそれがもう、半強制的に入りましょうみたいになると、チケット500円あげますよとか、そうみんな入るかもしれませんが。そういうので周知していくとか。だから、もっとすればよい手段だと思うんですよ。広報で配るとか、いろいろPRして何か。
林委員	質問してもいいですか。この地域学校協働活動っていうのは具体的にどんなことをやるものでしょうか。
事務局・多治見	今、アンケートの選択肢として掲げているような具体的な活動になります。
都築副委員長	大きく言ったらコミュニティスクール。
事務局・多治見	はい。地域学校協働活動という言葉も今回のアンケートであまり浸透しない中に出してしまっているんで。
林委員	学校の先生たちの回答は多いので、浸透してきている状況ですかね。
事務局・多治見	では、資料3のところで、今の話も踏まえてですけど、基本理念と人間像と3本柱のとかいっぱいあって、それも10年前に作ったものなので、やっぱり今後時代に合わせながら、今のアンケート結果も踏まえながらも少し市民にわかりやすいっていうところもあり、変えていきたいなっていうことで、今二つ、言葉を考えて出させていただいています。A案が共育・協育って言葉を入れた感じでちょっと短めに書いてあると、B案はこれからの時代に合わせて子どもたちが、大人たちもそうですけど、学んでいくことであったり、つながり合うことであったり、それからウェルビーイングって言葉もあったんですけど、幸せとか生きがいを感じてもらおうっていうことで、Bはそういったメッセージを入れ込んでいる感じです。とりあえずA案・B案どちらがいいですかってことが一つあるんですけど、今この状態でどっちかっていうよりはもう少しこう変えてこっち寄りがいいとかでもいいので、ご意見をいただけたらと思います。
都築副委員長	これからウェルビーイングっていうことで大村先生がおっしゃっていて、これってとてもいいって、これがもう今後もなくならなければ、このA案にウェルビーイングっていう言葉

事務局・多治見	を付け加えるのも一ついいなと思うし、あとずっと住み続けたいみよしのまち創りをするのであれば、例えばふるさと郷土の郷に育で「郷育」とかというキーワードをいれてもどうかと。 「きょういく」が3つ入ってくる形ですね。読み方によっては。
都築副委員長	ふるさとのよさを知るとか、なくてもいいんですけど。ウェルビーイングはいいなと思います。私はA案。
事務局・多治見	ありがとうございます。順番にお聞きしてもよろしいですか。
清水委員	私は、これは市民に掲げるものと思うと、Bの方が分かりやすいかなというか、その協育・共育のなじみがない人もいるかもしれないと、そのBが分かりやすいかなという気はして、Bを推しますが。さっき言った自己肯定感みたいなのを、そういうものを含めるといいかなと思うんですけど。みんなが自分らしく、自分を大事にしているってことになると思うので、自分らしくってというような感じのことをどこかに入れるといいなと思いました。
鈴木睦委員	私はA案の方を推します。協育と共育、この字を見て1人じゃないんだと、自分がこのみよしで子育てをしている親が、1人じゃなくて、ともに誰かに言えばとか、そういう広い思いがある言葉だなと思うので、こちらでもいいかなと思います。
山岡委員	私はA案かなっていうのを感じたので、こっちのページにも、送り仮名があるんですけど送り仮名があるといいかな。すごく読みやすいというか、何て読むんだろう。共育の方を、やはりそこでつまずいちゃうっていうのもあるので、ひらがながあるのがいいかなと感じました。B案は、この目指す人間像の通り、同じような単語だとか説明が入っているので、どうしても協育・共育でこどもと関わったりとか市民と関わったりっていう感じを推している感じが今までもあるのでその単語が、それを最初にもってきてもいいのかなと感じました。
林委員	私もA案で、基本理念っていうところなので、大きく捉えてもいいのかなっていうところで、みんなでつながってみんなで心豊かになっていう、本当に1人じゃないよ、みんなであってところが分かりやすいのかなっていうのは思いました。でも、さっき言われたみたいに、これが市民目線ですとどうなのかなって今意見を聞いたときに思ってしまった。
事務局・多治見	最初は、こんなみよし市にしていこうとか、こんな社会にしていこうっていうような感じにしようと思ったんですけど、教育振興基本計画なので、人を育てていくってことであれば、こういう人にしていこうっていう方がいいかなっていうところで、対象を人にしたっていうところがあります。育てるとかにしようと思ったんですけど、何か市がやるみたいな感じの印象を与えてしまっはいけないと、みんなでやっいていこうって意味で、こうやってやると育てていくよねっていうことで育つにしました。あと協育・共育の説明がやはり

	必要かなってところも意見あったので、これだけだとどういう意味かなってところもあるんでその辺の補足は入れないといけないかもしれないなと思いました。ありがとうございます。 ここで決まらないと思うので、目指す人間像のところに話を移させていただくんですけど、自ら学びってところが重なっているところがあって、実は基本理念と目指す人間像をつながってるよっていうことを言いたかったのもあって、同じ言葉を残しているところがあります。特に自ら学びっていうのは最初に書いているのは、小学校中学校で身に付けさせたいなというところなんですけど、次が大人になってから、身に付けていけるといいかなっていうところで、最後がそれを支える地域であるためにこうしていくといいっていう感じでちょっと分けて書いているんですけど、こうやって分けて書いてあることについてはどうですかね。
都築副委員長 事務局・多治見	これを分けたってことですね。 そうですね。今まで一文で書かれていて、でもあんまり具体的でもない感じのところもあり、ふるさとみよしを築きって言うのも、みよしを離れて頑張る人もいるみたいなのところもあったので、あんまり築きを限定しない方がいいのかなっていうところもあり、ちょっと広く今回はみよしという言葉を外してるところはあります。
都築副委員長	市長のマニフェスト、目指す都市像で挑戦し続けるまちづくりってありますね。人が輝いて、それにもちょっと関連して、この間、集会で子どもたちに話したのは、うちの学校も挑戦というのが校訓なんですけど、ともに挑むで「共挑」という言葉を造語で作ったんですね。共に挑む、共に挑戦する。共挑しあう。なかなかよい言葉かなと思って。そんなことはないんですけど、造語なんですよ。協育も造語なんですけど、築くってことはともにふるさとみよしのために。
事務局・多治見 都築副委員長 事務局・多治見 都築副委員長	1人じゃないんだよっていうメッセージですよ。 そう、ともに挑戦っていいなって。特に若いみよし市は。それは子どもたちだけじゃなくて大人にも。 分けることは分かりやすいかなと思うんですけどね。一文じゃなくてね。その中でさっき清水さんが言われた自己肯定感につながる自分らしくとか何か、自己肯定感という言葉。
清水委員	一番下のふるさとの魅力ですが、ふるさとっていうとやはり柿・梨・ぶどうとか遺跡とかそういう何だろう、人ではないものを想像しがちで、この三つ目が、人以外のものに重点が置かれているような気がしてしまうのと、さっきも言った自己肯定感みたいなものを入れるんだったら、自分も他人も大切にするっていうような感じのことを入れると、自己肯定感ってばっかり言っていますけど、大事なことだと。
事務局・多治見 清水委員	土台になると思います。基本理念と目指す人間像、どちらでもいいから入って来るといいですか。それともどっちかに そうですね、自己肯定感っていうよりも、自分も他人も大

事務局・多治見 鈴木睦委員	事にするみたいなそういう、学びだけに限らず、そういう姿勢っていうか。どんな分野であれっていうのが大事だなと思ったので。 はい。順番にお聞きしてよろしいですか。 今目指す人間像の中にふるさとの魅力を知り、そのふるさとは別に産地が柿がすごいとかそういうことではなくて、カヌーがあるとかそういうことではなくて、自分が生きてきたそこで、歴史、自分の生きざまみたいなのがみよし市の中で、すごいよかったと、それを魅力に感じて愛着をもってよかったよという、伝統に繋げるというか、だからみよしに住まなくても、外に出て、みよしはよかったと。だからふるさとの魅力っていうところの解釈っていうか。
事務局・多治見 鈴木睦委員	このままだとそう何かうまく伝わらないかも知れない的なところはありますか。 みよしのふるさとといえば、カヌーだとか、それは知っていますかとかそういうことばかりで、このまちはどうやって、それが生まれてきたのかとか、何かそういう何か歴史、その瀬戸物とかなんかばかりじゃなくて、瀬戸物がなくなったあともみよし市の歴史とか、そういう古いものも大事なんですけども話は違いますが、前はこうでこうなってきたのでその前はこうなってきたとか、上から下がっていく歴史教育は地域のことを知る上で大事じゃないかなと。愛知用水ができた、農業が盛んになったとか、以前のことをふるさとを考えるとときに取り上げて話してくれればいいかなと思うんですけども。話がずれていきますけど、ふるさとの魅力って、これでいいのかよく分からないです。
都築副委員長 鈴木睦委員 都築副委員長	こどもたちが対象っていうのがよいのかなと。みよしで確かに生まれ育つ子たちはふるさとですよね。みよしが。実際、北地区はいろんなふるさとからこちらへ、住宅建てて。 全く違う経験をするんですね、そこから。 そうなんですよ。だから大人の人、そういう親にメッセージを伝えて、ふるさとみよしって言ってもピンとこないかな。みよしっていう、みよしへの愛着っていうか。ふるさとみよしって言うと、こどもたちもいずれは出ていっちゃう、住み続けられないようなことを肯定しているような感じが。
清水委員 都築副委員長	ふるさとじゃなくてみよしでは。 ただのみよしの魅力で、ふるさとっていうと、もうこどもたちもいずれは出てっちゃって、過疎化が進んでいくみたいな。そうじゃなくて、ここをもっともっと愛して…
山岡委員	今言おうとしたこと、そのまま。ふるさとの魅力を知りというよりもみよしを知りでよいかなと思うんですよ。就職して、結婚して1回離れても、また戻りたいという気持ちになればいいし、自分はそこで育ったんだよって外で話してくれてもいいしっていうので、みよしがいいんだよってことが伝わればいいかなっていう視点もあります。あと、伝統がよくわからないんですけど、それを知ろうっていう気持ちが、そう

清水委員 事務局・多治見 清水委員 山岡委員	いうのを知った方がいいよってことを伝えたいのか、だったら何かそのみよしをみんなで育てているんだよっていうのは、歴史の一員になるじゃないけど、みよしの歴史のそこに住んでいたっていうだけで歴史の1人になるというか、関わった1人なんだよっていう、つなぐ人でもあるんだけど、何て言うのか分かんないけど表現が。 大切にしていくなとか。 伝統が重たかったですね。 伝統っていうとどうしてもそういう。 そういうのに関わらないとか、体育祭に例えばスポーツ祭に関わっただけでも、大きく言うと伝統だけど、毎年の行事に参加して盛り上げたっていうのにも貢献しているというか、関わっているってことにはなと思うので、言い方を柔らかくというかそういう感じです。
林委員	三つあるっていうのはすごくわかりやすいのかなっていうのは思いました。自己肯定感のところも本当に私もどこで自己肯定感の最初の説明のところでも自己肯定感っていうような話もあったような気もするんですけど、心豊かなこどもを育てるって、ここかなと思いつながらでも、上にもどこかで入るといいのかなと思いました。本当にみよしっていうところで
事務局・多治見	今現在も、本当にちょうどうちのこどもの世代が結婚して1回離れてでもみよしに家を買って建ててっていう同級生が何人もいるもんだから、今まで先生たちがいろいろみよし愛を育ててくださったから、みんな戻ってきているんだなっていうのをこれ見てすごく感じたところです。
事務局・多治見	時間が来てしまったので、ここまですなるんですけど、今後、今いただいた意見をもとに、また考えてみたいと思いますので、ありがとうございました。
新美教育部参事	<Bグループ協議> それではよろしくをお願いします。取り回しは私の方でさせていただきますが、皆さんも思ったことをどんどん言ってもらえればいいと思います。配分としては16時5分と言われたんですけども、大体初めの20分間ぐらいでこのアンケート結果で気になったこととか、もっとこういふところ知りたいなということがあれば出していただければと思っていて後半の30分間で令和8年度からの新教育振興基本計画の案に対してご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
丹羽委員	では最初にアンケートについてです。先ほど富樫さんの方から回収率のこと、まずそうですね、確かにそれは感じるものなんですけど、見られてまず気になったようなことってどこかありますか。お願いします。 三好丘小学校の丹羽と申します。この冊子の8ページなんですけども、最初に上の表で実際に学校教育の課題として、④番の教員の多忙化による子どもへのきめ細やかな指導が十分

	ではないというところが非常に多くて、教員という立場からするともう本当に心が痛い数字です。 先生方の頑張りも見ている一方、保護者がそれに対して満足していただけない、そんな現状が現れたのかなとは思いますが、具体的な回答は5番6番7番を回答した人が4番にもつけてる感じなんですかね。どんな手段が十分ではないのかが分かるとまた先生たちね、こういうところ頑張っていこうねっていう話もできるんですが、そんなことを聞きたい
新美教育部参事	4番を回答した人が他にどの項目でも回答したのかっていうことが分かるともう少し具体的にどういう、どういう点で多忙かって多分この生徒たちがまた多忙なんじゃないかということがつかめるんじゃないかということですか。
丹羽委員	その保護者が何を望んでらっしゃるのが、もう少し具体的に分かるといいなと思いました。
新美教育部参事	ありがとうございます。これに関連することでも結構ですが、いかがでしょうか。
富樫委員	今の同じ項目のところで、8番で道徳教育や心の教育が十分でないというところを書いた保護者は9%ということは充分だって人の方が多いいというふうに考えていいんでしょうか。そういうことですよね。それなら納得は多少いきますけど、保護者もやっぱり道徳教育は関係ないとしても、心の教育っていうのは保護者も一緒になってやらなきゃいけないことなので、学校教育にだけ求めてたら、ちょっとお門違いだなと。以上です。
新美教育部参事	さっきの共通のじゃないですけど、数を多分絞っていると思うんですよね。それがいいか悪いかっていうと、先ほど大村先生も言われたけど、実際思っていることが全部反映されないんじゃないかっていうようなことも言われるのももっともだと思いますし、また違った見方をすると、例えば、さっきの教員のでもはっきりに全部大切なんですよね。極論からあれが全部100%じゃないとおかしいと思うんです。でもそういうふうになっちゃうと、みんなそうやって思ってるんだなって終わっちゃうもんですから、みんな思うんだけど特に大切だと思うのはこれだっていう軽重が分かるっていう意味では数を絞る。それがいいか悪いかといえば別なんですけど、そう考えたときに今回の今の8ページの上の表も数を絞っていたとしたらいくつか課題だと思う中でもやっぱりこれが課題じゃないかっていうものを優先してやっている部分があるんで、十分ではないというのが9%なんですけども、そう思っているから9%あるんですけども、もう十分であるっていうのが91%かっていうと、と微妙ですよ。
富樫委員	91%だと、いいことですけどね。
新美教育部参事	そうですね。ありがとうございます。
平山委員	図書館協議会の平山です。20ページのところなんですけど、読書推進のところを見ると上の段を見ると本が好きか嫌いかって好きかどうかっていうアンケートを見ると、大変好き

	どちらかが好きっていうこれ二つ足すとそんなに大きく変わってないと思うんですね。令和4年と令和6年。市民、小学5年生、中学2年生、全部それぞれそんなに変わってないと思うんですが、その下の段のサンライズに行くか、サンネットの図書コーナーに行ったかっていうところを見ると、10回以上行ったっていうのはかなり下がっていて、さらに図書館に行くことはないっていう項目があって、これ令和4年は全くないので、項目がなかったのかちょっとその辺がちょっと分からないんですが、非常に多くなって思うんですね。図書館に1年間に1回も行ったことがない。あんなに立派な図書館があるのに、その辺は図書館の努力が足りないのか、よく分からないんですが、あと小学5年生と中学2年生は学校に図書室がありますよね。そちらの方に行ったらしゃればまた話は変わってくると思うんですけども、その辺がどうなっているのかなっていうのを知りたいと思います。あと11ページの方を見ると、学校の施設の中で、下の表が二つあって、下の表を見ると4番に図書館の本を新しくしてほしいという項目がありますよね。改善してほしいことで小学5年生の方は38%で結構高いような気がするんですね。毎年、学校の図書室で本を買ってらっしゃいますよね。だからそのこどもたちの要望に合った本が買われているのかどうか、その辺も含めて、何かちょっと気にはなりました。有効に学校図書室が活用されてればいいんですけども、市の図書館に来なくても、遠い子は来れないっていうのもあると思うので、その辺が気になります。
新美教育部参事	そうですね。距離のことは確かにあるかとは思いますが。たださっきの一つ目の20ページの図書館に行くことはないっていうのが、前回令和4年度は選択肢がなかったということでこういう形になっているんです。あとはなんかすごい人の流れというかなりますか。
二子石生涯学習 推進課長	図書館に行くことはないというのが前回なくて今回入ってそこの数値的にね、大きな数字が上がっているわけで、実際お子さんたちにいろいろ習い事をしていて、忙しくて来られないっていうのと、物理的にサンライズという建物まで、なかなか遠い子は来られないんですよ。三好ヶ丘駅前にもあのサンネットがあって図書館であってっていうのはやっぱり物理的な距離の問題は当然出てくるのかなっていうのが一つなんです。ここでちょっとアンケートの取り方をどうするかっていうところもあるんですけど、今電子書籍っていう皆さんのタブレットね、小中学生の皆さんも持っているんで、それも含めて、図書館の利用というような質問に変えるとまたこれはだいぶ変わるのかなと。あくまでこれ物理的にサンライズに行った事があるかとかいうような質問なので、もうちょっと変わるのかなというところはちょっと。
新美教育部参事	そうですね。今言われたように、タブレットを子どもたちが1人1台タブレットを持っていて、そこからサンライズの本にアクセスじゃないけども、閲覧ができるようになると、質

	間内容もサンライブに行ったかどうかというよりも、サンライブにある図書を借りたか、読んだかとか、そういう内容にも変わってくるのかな。読書に親しむっていう視点になるかなと思います。もう一つ、学校の図書館の本って、今、本の購入についてはいろいろな人の声っていうのはどんなふう
丹羽委員	本校のことしかちょっと分からなくて申し訳ないのですが、蔵書率が100%を超えていると、予算があまり十分来ないっていうのがあって、今一生懸命古い本を廃棄しておるんですけども、本校は130%以上あるので、ずいぶん捨てなきゃいけない。その精選に教員とか司書補助さんが力を注いでくださっているんですけども、もう一つは今まではPTAの予算でこれだけは図書費で使っていいよっていうのがあったんですけど、最近PTAの予算をそういう学校の書籍に充てるっていうのがどうなんだっていう風潮もあって、なかなかPTAさんにもお願いしにくい状況が出てきて、なかなかいい本が増えないっていうのがあるのかなと思っています。
平山委員 新美教育部参事	ぜひ増やしてあげてほしいですね。 蔵書率というのがあって、これがその学校のこどもの人数に応じているんですね。その児童数によって耐えられるか適切な図書の冊数かどうかという、昔は1000人を超えてたような学校だったのが今は423人。これで当然蔵書率がどんどん上がってきますよね。もう十分過ぎるだろということで、だから逆に蔵書率が低いところを優先しているのもあるので、それこそもう古い本ね、逆に蔵書率を100%切っちゃうと、県の方から指導が入っちゃうので、どうなってるんだっていう。切ることはいけませんよ。なので上手いことね、廃棄にするというか古い本は思い切って処分して、その分きちんとね、予算を市の方から付けてもらって、100%を切らないように、しかも新しくこどもたちが興味がある本をということで、多分子どもたちから希望をとったり、司書さんとも希望を取ったりして、どの学校もそういう形でやっていると思います。
平山委員 新美教育部参事	難しいですよ。古い本でもいい本もいっぱいあるし、そこがね。ありがとうございます。 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。鈴木校長先生は何か気になったことはございますか。
鈴木政委員	三好高校の鈴木です。県立高校なので、基本県の方針に基づいてやっているんでちょっとこれを見ててちょっとずれがあるというかなんかちょっとやっていることが全然違うのであれなんですけど、気になったのはアンケートの結果の12ページの部活動のところで、保護者の方も中学生の生徒さんも結構もっと部活やりたいなというような意見が結構多いんだということが分かりました。というのは、今おそらく義務教育はもう数年の間に部活を手放して地域移行していくということが進んでいると思うんですけど、県立高校は実際何

新美教育部参事	年後に地域移行やりなさいってことになってないんですよ。だから、これから多分ちょっとねじれた構造というか、義務教育は地域に手放してくんだけど、高校は部活動という。だから高校としてはこれから3年4年すると部活動じゃないところでスポーツとかそういうことに関わってきた子たちが高校へ入ってくる。高校は部活動がある。本校のようにスポーツ科が関わるような学校ですと、スポーツ科に来る子たちは基本、ある意味部活をやりに来ているというか、その部活の専門で来ている子が多いので、これだけ部活頑張りたい子がいるってことは嬉しいことだと思うんですけど、こういう保護者や生徒さんの思いと、地域移行してその現場の先生方の考え方っていうのは、ここに先生方がアンケート結果で何か全然違うのが出てくると、またこれもちょっとなと思うので、出しにくいと思うんですけど、どういうふうに動いていくのかなという。この数字だけ見ると、学校の部活をやってほしいみたいな意向というのは結構強く色濃く出ているんじゃないかなと思うんですけど、実際の動きはだんだん地域に手放す。でも地域に手放していく中で、多分大きな問題点は、行政とかそういうところが指導者の確保をどうしていくんだとか、どういう活動していくんだということがすごく大きな問題になってくると思うので、ここでいう教員と指導者の指導方法についてというのはまたその次に出てくる問題じゃないかなと思うんですけど。大部分は、保護者の皆さんも部活やなんか、スポーツはしっかりやってほしいというふうに思っているのかなと思いました。ただ、うちの学校のような関わり方としては今、スポーツ科があるので、実はその地域連携スポーツ講座ということで出前授業みたいなことを保育園さんとか小学校さんとかそういうところから依頼があれば、例えばラグビー部が行って園児と一緒にタグラグビーでスポーツを楽しむとかそういう活動をやっているんで、そういった地域貢献とか地域にスポーツとかそれこそ普及していくような活動っていうのはこれからもどんどんやっていくべきということは、あらためて結果を見て、うちのような学科は県内で1校しかないんで、スポーツ学科はそういう学科を持っている学校としては、地域にそういう貢献の仕方っていうのはこれからもっと大事になってくるんだなというふうにいるのがこの数字から見えるなと思いました。 はい、ありがとうございます。そうですね。中学校の現場でもやはり部活動をもっとっていう声、親の声、こどもの声っていうのはすごくあってですね、こっちもやりたい気持ちはねたくさんあるんだけど、みよし市だけの問題じゃないので、なかなか難しいですね。実際、今までは地域移行という言葉で言われたのが、数日前に「地域移行」でなくて、「地域展開」っていう形で言葉が変わりました。実際は当初の予定では令和7年度末をもって土曜日、日曜日の休日の部活動は、地域の方でというような形で、平日はまだ全然。不透明で、し
----------------	---

鈴木政委員	ばらくはまだ学校の方でやっていく形になると思うんですけども、ただ本当にすぐ校長先生言われるように地域の方へというふうに言われるんだけども、それを指導していただける方の確保っていうのがここ数年ちょっとずつやっぱり増えてきているんですけども、まだまだ学校から完全に離れるかっていうと、ちょっと難しいよねっていうことですね。
新美教育部参事	みよし市さんの方でいろんな部活で、スポーツ関係の方にも出させていただくんですけど、みよし市さんが上手にやっているのは、カヌーの展開は上手だと思います。みよし池があるので、うちもカヌー部がありますし、広報さんもあるんですけど、カヌーの専門の本校のOBがやっているの、聞くとやっぱり協会がしっかりしてるので、大会もスプリント大会でも本当に中学生から社会人までみよしにゆかりのある豊田地区でもゆかりのある方が一堂に会して競技をやって、練習なんかも土曜日とかなんかはクラブチームで中学生も高校生も一緒にしているということで、そういう取組はカヌーはとても上手に、もちろん協会がしっかりあそこにあって、いろいろと取り回しされているのでそういうスタイルがうまくできると、いろんなスポーツが市でも普及するのかなと思うんですけど。
富樫委員	そうですね。今受け皿として受けていただけるというところは本当にありがたいなと思います。文化部の方でもね、富樫さん、文化協会の方でちょっと状況をお話してもらってもいいですか。 はい。文化的な部活の方は、何か文化協会に丸投げっていう形ということで、課長もみえますし、だったら土日をサンライブとおかよし交流館を使って、最初の出だしがちょっとうまくいかなかったんですけど、この10月14日が1回目の希望を今、多分流してもらって、人数が出てきたら、絵画が何人、彫刻が何人、踊りが何人とか、普段経験したことのないのでも全部文化協会にある部会の方で挙げていって、どれにどれだけの人が来るか、今ちょっとそれを見てから今後どうしようかっていうのを続けていけるのかなっていう。それを見ないことには生徒さんがどういう希望をもっているか、運動部の人でも全員が全員、スタメンで出ないので、選手ではない人、ただ1年2年の人でも、今日は部活がないから、例えば絵を描きに行ってみようかなとか、そういうのも自由に入れる。開かれているときに入って来られる状況にして、回っていくとうまくいくんじゃないかなと思っているんですけど、まだ本当に初めの一步を飛び出してみないと、何とも言えないところですので、でも頑張ります。はい、私が頑張ったところでどうしようもないんですけど。
新美教育部参事	今回、このアンケートで部活動に特化したような形でね。部活動もう今ね、もうできることがだんだんと限られてきちゃうもんですから、部活動っていう枠じゃなくてこどもたちが休日に活動できることというふうで、その一つの部活動、

	それから文化協会が開く文化講座だとか、自分たちがどんなことをやりたいかっていうことを、興味をもてることに取り組めるような、そういった形で持っていくのが今目指しています。 今日のメインはこの次の二つ目になるんですけども、先ほど多治見先生が言われた次回の教育振興基本計画の案についてです。大きなところから順番にご意見をいただけたらと思うんですけど、まず一応、0からだと言論も難しいと思うので市としての案をつけさせていただきました。このスライドの13ページ。一番大元ですね。基本理念っていうところが一番の大元になります。今現在が学ぶ楽しさで人と人をつなぐというのが基本理念なんですけども、令和8年度からの新教育振興基本計画の基本理念ということで、A案、協育でつながり共育で心豊かにいうA案、それから。自ら学び、つながり合うことで生きがいを感じる人が育つというB案というものを示させていただきました。これについて何かご意見だとかA案、B案のそれぞれの賛成意見でもいいですし、A案だけでももう少しこういう部分は必要かなとか、そういうプラスアルファの考え方でも良いですし、思ったことがあればご意見いただければと思っています。いかがでしょうか。
富樫委員	質問を兼ねてますけど、基本理念を一番知っていただきたいっていうのは市民ですか。市民全員ですよ。
新美教育部参事	内容は教育プランなんですけれども、対象は小中学校の保護者とか子どもたちだけじゃなくてやっぱり市民です。
富樫委員	市民ですよ。地域を巻き込んでってこと。そういうことになる、あんまり活字ばかりでないものの方がいいかな。A案B案どっちかって言われていますが、もっと何なんだろう、ピンポイントでぱっと見て、目に入る。活字が苦手な人もいますので、もっと何か、パッと見てわかる、目で見てわかるものの方がいいかなって一瞬思ったんですが、だから協育と共育がボーンと来て、つながりとか、心豊かについていうのは、それに付随してくることがあるので、私はB案だと長すぎてこれ全部読まないで最後まで読まないでわからないということを感じる、このAかBかって言われたら、A。ただしもっと図案的に何か心にポンと飛び込んでいくものが欲しいなと思います。
新美教育部参事	ありがとうございます。関連資料でも結構ですがいかがでしょうか。 これに関わったことはないんですけども、こういった一番大元のものを作るときに最近よく言われるのが、キャッチーだなっていうことはよく言われますよね。だからそういう視点も必要だと思いますし、富樫さんに言われたように、例えばA案にしるB案にしる、どっちかになったとして、これが令和8年度から続くじゃないですか、令和8年度から10年を基本にやるんですけども、途中でみよし市教育振興基本計画についての基本理念って何ってポンと聞かれたら、答えられるかどうか

富樫委員 新美教育部参事	か、言えるかどうかっていうところがね、 特産品って、柿・梨・ぶどうって言っているような感じで、教育って言ったらボンと出る言葉がいいかなと思うんですけども、協育・共育っていうと本当にすごく一般市民の人は難しいっていう思いが多分、自分たちには関係ないかなって言う人たちが結構。高齢化していますしね。ワンチームみよしとか、なんかそういうような。何かそういうフレーズでボンと基本理念を持ってきて、それって何ってなったときに、ちょっと分かるようなものの説明が書いてあるのがよいかなと思いますけど。これは個人的な意見です。
新美教育部参事	心に残る、インパクトのある心に響く言葉、だからニュアンスとしてはB案のような、コンパクトなのでもっとオーバーにできないかっていうかね。一つご意見出てきました。いかがでしょうか。自分としてもちょっと気にしているが、この協育と共育が万人に、さっき説明があったけど協育・共育っていうのは、自分たちはずっと関わっていくと分かると思うんですけども、これを例えばお子さんのいないような市民の方々が、字は違うけど何が違うのっていう疑問はやっばりもたれると思います。これそういう部分は別のところにきちんと注釈じゃないけども、説明は要るかなということだと思います。
富樫委員	みよし小学校は草取り作業に、いきいきクラブさんに来てもらったりしているんですけど、やはりその方たちにも、みよしはこうだっていうのがわかるようなものにしていただくと地域の協力をもっと得られるんじゃないかなっていう気がします。
平山委員 富樫委員 新美教育部参事	みんなで育てようって。 そういうの何か募集してもいいかなと。 分かりました。A案、もう少しだけコンパクトにする。おお！とかって思わず声が出るような。
富樫委員	何かふと浮かぶといいんだけどね。そういうの見えるんじゃないですか、みよし中探すと多分
平山委員 新美教育部参事	優秀な人が多いですからね。 では二つ目になりますけれども、今度は市の目指す人間像についてになります。今が生涯にわたって自らを磨き続け、仲間とともにふるさとみよしを築き、よりよい時代を作り出すと。ちょっと長いですね。それをちょっと部分部分にわけて三つですね。この自ら学び、～～できる人。社会や地域と繋がり～～ができる人。目指す人間像だったので全部人という形ですけども、三つ目はふるさとみよしを知るっていうふうに分類したらいうような意見なんですけど、これが三つ目に関わってくる3本の柱にそれぞれ連動するような。今度は三つの柱じゃなくて、基本目標1、2、3になっていますが、それぞれにつながっていくものとして案を出させてもらっていますが。いかがでしょうか。
富樫委員	これも同じようなことが言えて、この言葉自体はこれでい

	いんですが、この星のところの位置になんかイラスト的に言葉を意味するようなものを、パッと見てわかるような、イラスト的なものがポンと入って、自ら学び…というのが入ってくると、この三つとも。でも難しいんですけど、社会と地域を繋がりだから、みよしの地図を持ってくるのとか、やっぱりこれも活字じゃなくて、目で見てわかるように。 図だとか絵だとか、何かそういうに連動したようなものがワンポイントであったりするとよい。
新美教育部参事	
富樫委員	市の計画をやはりそれも市民全員の方に理解していただかなきゃいけないし、分かっていたかなきゃ、まとまらないと思うので、本当にここだけ一生懸命本当にやっても、それでも市民に伝わらなかったら、本当に何のために会議をやったのってなるので、市民にどうしたら伝わっていくかっていう視点を入れながら作っていかないといけない。
鈴木政委員	さっき富樫さんおっしゃったやつで、愛知県は教育プランがあって、2025ってやつでやるんですけど、その基本理念は、「自らを高めること」と「社会の担い手になること」、これだけ。それにいっぱい書いてあるんですけど、基本はこの二つなんです。この二つの中で例えば主体的対話的にどうのこうのとかってという話ですけど、もっと例えばこの三つがその具体的な中身になるとか。そんなイメージなのかなと。さっきその話を聞きながら、愛知県はなんだったかなと思って、確か社会の担い手になることなんだと思ったんですけど、そんなにやっぱり長くないです。
新美教育部参事	そうですね。やっぱり長いと見た瞬間、おおって思ってしまう。
鈴木政委員	僕も個人的にはA案がいいなと思ったんですけど、同じでこの協育と共育っていう言葉が、僕らは教育現場にいるので、なんとなく想像がつくんですけど、一般の市民の方となると、この区別は何だろうっていうのが疑問になるのかなっていうのはちょっと感じました。
新美教育部参事	人間像を三つに分けること自体は悪くないけど、もう少しやっぱりコンパクトに本当に要点を絞ってっていうような。
鈴木政委員	その人間像のポイントがこれで、自ら学び〜とか、こういうふるさとの魅力を知りとか、そういうふうなことが、国際的に何とかとかいろいろ出てくる。
新美教育部参事	分かりました。あとはいかがですかね。まず人間像。ジャンル分けはこの三つでいいですかね。自分自身に関することとか、社会や地域、それからみよしとしてのふるさと。最後、次の14ページのところがこれまで3本の柱というふうに言われていた、目指す人間像を育てるためにどういうことを。少しざっくりとしたものがあるんですけども、何を柱としてかっという、三つで、次代を担う子どもをみんなで大切に育てる。生涯にわたって学び続ける市民を応援する。ふるさとみよしをつくる市民を育てるっていう。その下にもっと細かいのがたくさんあるので、このレベルのざっくりとし

酒井学校教育課主幹	た大きなものなんですけども、これを柱というふうじゃなくて、基本目標1、2、3ということで、先ほどの目指す人間像の三つに連動したような形ですね。こういう人間像、人を育てていくために、どのように市としては進めていこうかという目標になります。 一つ目は次代を担う子どもを地域ぐるみで育てる、目標2が、要するに生涯学習なんですけど、いつでもどこでも誰でも学ぶことができる。三つ目はふるさとみよしへの愛着、というのを三つの目標として掲げていくんですけれども、案としてありますから、そこをいかがですかね。
富樫委員 丹羽委員 新美教育部参事	3本の柱にすると、並べたときに、無理やり並べてるんですけど、柱にならないと言うか、というところで、目標っていう形にすることで、見える化をしたっていうところがあります。三つ目はやっぱりどうしても生涯にわたってやっていくことっていうところで、今これ幼年期から高齢期まではあるんですけども、そこを柱にしまうと、どうしても柱っぽく見えなくなってしまうっていう部分で今回目標という言葉にさせていただいたところがあります。
丹羽委員 新美教育部参事 鈴木政委員 新美教育部参事 富樫委員	柱だとながら、流れがない見えなくなっちゃう。 基本目標2の主語って何なんでしょう。 対象になるのは市民ですね。それが少し、誰がっていうのが…次代を担う子どもを地域ぐるみで育てるのはこういう、学校にしる、地域ですよ。2番目は市民だね。 市民が環境を整えていくということですか。 学ぶことができるのは市民。環境を整えるのは、こっちか。行政ですよ。
新美教育部参事	機関だとか地域とか、になるのかな。 質問いいですか。目指す人間像と3本の柱って柱は別として、このページとの関わりがどういうふうに考えたらいいかと思ったんですけど、基本理念は分かるんです。それで目指す人間像、その基本理念を置いて、それに向かってどういう人間を育てていくかっていうのを目指す。その次の、それに対して基本目標。その目指す人間像に対しての基本目標1、2、3になるんですか。 最後のところに大まかなその体系図があるんですけども、まず一番目に来るのは基本理念で一番大元になる。次に目指す人間像がきます、それを達成するための。ただそうするために必要な人をさせるかその下が基本目標なんだけども、やっぱり年齢、時期によって、基本目標3のふるさとみよし、年齢関係なく、小さい頃からお年寄りの方まで、共通していることなんだけども、基本目標1っていうのは次代を担う子どもを地域ぐるみで育てるっていうものなので、幼年期から小中学生、高校生がターゲットになる。それから生涯学習ですね、いつでもどこでも誰でも学ぶことができる環境を整えるっていう対象が、思春期から高齢期にかけて、というような年齢層に合わせた体系を考えていく必要があるのかなと。

新美教育部参事 富樫委員 平山委員 富樫委員	自宅よりも学校のトイレの方がきれいですよ。 きれいですよ、本当に。 トイレ大事ですよ。 大事。なんできれいにしてほしいって書いてある子がいるのかなと思ったんですが。
新美教育部参事 丹羽委員	そうですね。じゃ自分たちできれいにしようよってことですよ。 黒笹小って市内で一番新しい学校じゃないですか。トイレだけは三好丘小の方がきれいなんですよ。工事が後だったから。
平山委員 新美教育部参事	中学校でも本当にきれいですね。 そういうその大規模改修というのはしょっちゅうできないので、12校あるんで基本36年に1回ぐらい。30年ぐらい経っていると困るじゃないですか。そういうとこのこどもたちはトイレもっときれいなのかなと思います。
平山委員	うちのこどもなんてもう今日トイレに行かなかったっていうんですよ。なんでっていうとき汚いから行きたくないって言っていましたもんね。小学生の頃、今はもうきれいにしているから多分行っていると思いますけど。ビックリしますよね。1日トイレに行ってなかったということが。
富樫委員	昔のトイレはもっとひどかった。怖くて、それに比べたらとてもよろしいですよ。冷暖房も本当に今みんな入っていますよね。特別教室も入っていますよね。すごいみよしはだから本当に恵まれているし、すごいいいまちだとみんな思っ てほしいと思うんですけど。
新美教育部参事	まとめとしては最後に酒井先生の方にまとめを報告してもらいますのでご承知ください。本当に今日はいろいろなご意見ありがとうございました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<Cグループ協議> 先ほど事務局の方で説明もあつたんですけど、もう一度自分の方からも確認をさせていただきたいと思います。まず一つ目の協議ということで、こちらのアンケートの結果分析について、いろいろご意見ですとか、教育長からもありましたけど、これから協議する中でこういったことも聞いてほしいなと思うようなところを教えていただきたいと思います。こちらを20分くらいかけて行います。その後にこちらの資料にありますけれども、基本理念と目指す人間像をそして基本目標について大体10分ぐらいずつ大まかにですが区切ってですね、ご検討いただければというふうに思っております。短い時間でたくさんの方からいろいろと話を聞けたらありがたいと思いますのでよろしくお願いします。では最初にアンケート結果についてですけれども、たくさん数字が並んでいるんですけども、率直な感想でもいいですし、お気づきの点ですとか、もちろんここがよく分からないなっていうことがあれば、どんなところからでも結構ですので、出していただき

大地委員	たいと思います。よろしくお願いします。 アンケートについて先ほども複数回答か3つ選ぶかっていう話が出ていたんですけども、私はこれを見ながら、令和4年、令和6年と比べたりとかして、3つにしたから分かるなっていうこともいくつかの点で出てきて、3つ選ぶとなるとこれを選ぶんだっていう重要性を感じてみえるなんていうことが分かるのでそれも1つありだな。教員の立場で言うと、どれもこれも本当に大事にしたいことなので全部選びたいなっているのも、分かるので、知りたいことによって3つで、どこを重要と思っているか知りたいかとか、教員の意識としては全部選びたいなというのとは当然だとは思いますが、そういうふうにとのぐらい意識があるかっていうところで選びたいなら、いくつでもよいよっていう、単一的にするのではなくて、何を知りたいかっていうので分けるとよいかなということを思いました。それからアンケートの1の学校教育に期待されているということとところで、思いやりとかやささってところが基本的な知識や技能の次の段階で皆さん選択されているっていうことがありましたので、思いやりとかやささってところを後半に議論される基本理念とか、そのところにもっと前面に出てくるとよいかなということを感じています。それからあと2点目は、アンケートを、前の学識者の先生方からのご意見のところ、子どもの意見を反映されているのだとこどもの考えを聞いてっていうところが出てきていて、大村先生もそうやって言われたんですけど、その部分が今までなかなか取り上げにくかったところでありますので、いろんな場面でこういう機会が生まれるようにするのが必要かなということを思いました。それからあともう一点ですけども、社会教育の立場から来ているので、生涯学習の推進のところ、アンケートの18ページで、この1年で体験したものは何かとか、体験したことは何かということが出ているんですけども、この1年で勉強とか体験したのを世代別に見たいなと。時間ができた高齢者がたくさんなのか、若い世代でもそういうことに励んでいる人がたくさんいるのか世代別でどのくらいの感じで参加しているのかなということは教育長も言われたんですけど、その辺をもうちょっと詳しく知りたいなと思っております。以上です。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 鈴木康委員	ありがとうございました。こどもの意見をっていうのはよく、市で作っているこども計画ですとかああいうところでも積極的に取り入れてこうという話も出ていますので、そういった視点というのも今まであまりこどもが参加している取り組みがなかったので、やっていく必要があるのかなというふうに話しているところです。ありがとうございました。続いていかがでしょうか。はい、どうぞお願いします。 スポーツ推進委員の鈴木と申します。スポーツの関係からちょっと言わせていただくと、あんまりよく他のことは分からないけど、12ページの部活動。今、絶対的に部活動をやる

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 黒田委員	時間がなくなってきた、先生たちも顧問という先生たちがもう2年先からいなくなるということで今、みよしスポーツクラブを立ち上げてやってもらっていて、私もテニスのことしか分からないですけども、テニスだと年に20回近く、今の中学生を土曜日に朝の8時から11時まで教えるということで、とりあえず2年間、顧問の先生と一般の人たちが教えるような形でやってます。2年後からは一般の人たちが教えていく形になる予定だけれども、なかなか人の手配ができなくてこれ以上なかなか時間とその指導員の時間もないし人も増えないだろうということでジレンマも多くて、今これアンケートを見るとこどもたちは多少はうまくなりたいと少ない時間でうまくなりたい、だけど時間がない、親たちは強くななくてもいいけど他のことを教えてほしいって言うんですかね、このところで難しいところがあると思って私達もいろいろ工夫しながらやっているんですけど、まだまだ、努力が足らなくて、そういうところがあります。 今、部活動のところあったんですけども、こどもは以前と比べて、楽しさだとか、そういったことに重きを置いている、回答を出している人が多いかなと。保護者の方はどちらかというと、それもあるんだけどもっと心身ともに鍛えていくみたいな、そういったところを求めているところ。ニーズの違いが出ているのかなっていうのがあります。みよしクラブという話が今出てきたんですけども、休日の部活動に代わる組織ということで今進めているところなんですけども、立ち位置としては勝ち負けっていうところじゃなくて、初めの一歩という形で運動に親しむと、入口を広げていこうというような形で進めているところなので、そういった趣旨を伝えて参加をしていく、あとは指導者の方にもそういう位置づけということをきちんと確認した上で、ご協力をしていただくということをやっているかないと、すれ違いが出ちゃうっていうのもありますので、そういったことを進めていきたいと思います。ありがとうございます。 部活動のことで、増えている親の意見で、部活動がないと遊んでしまうから部活動に打ち込んでもらえるようにしてほしいっていうその意見がやっぱり部活をやっている親が結局、責任も部活動に任せてしまえばいいっていうところが、こどもを育てる上でやっぱりもっとそういうスタンスじゃなくて、みんなで育てていこうよっていうところがあって、お家の方も任せてOKじゃなくて、そうやってやっているところ以外のところでやっぱり育てていかなきゃいけないというふうに思うので、もっと何か関わり方をもっと、あんまり期待しすぎないようにしないと、部活がないから駄目なんじゃないっていうふうじゃなくって、そういう家庭教育もそうだし、地域のいろんなところにもイベントに参加するだけでなく、普段のこどもたちの接するところでも育てていくっていうスタンスが必要なんじゃないかなっていうことを思って、
--	--

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	部活やらないから先生が悪いとか、受け皿がない社会が悪い、そうじゃなくて、みんなでどうやってやってくといいかなっていうの知恵を出してこどもを育てていくっていうスタンスがないと、どこかに責任をなすりつけて育てられなくなってしまう、育てにくいっていうふうになってしまうと思うので、そういうところが何か一つよいアイデアはないですかねって、お家の方もやっぱそういうスタンスで話ができないといけないのかなっていうことを思っています。誰かに任せるのではなくてみんなで作るよって先ほどの意見と繋がってくるかなと思うんですけど、そういうスタンスがお家の方の意見として欲しいなと。
大村委員長	やはり今までの流れというものもあるので僕自身もそうですけど、分かっているながら今までの習慣っていうかね、考え方っていうのが刷り込まれてる部分もあるので、やはりこれから、変わっていかなくちゃいけないし変えていかなくちゃいけないかなというふうにも思っているところです。ありがとうございます。
黒田委員	今のところなんですけど、これ設問が悪いと思ったんです。部活動がないと遊んでしまうので部活動に打ち込めるようにしてほしい。前半と後半ちょっと違うんですよね。それ一緒にしちゃっているから、また遊ぶことは、必ずしも悪いことではないし、部活に打ち込めるようにしてほしいという願いと、遊んでしまうから面倒を見てほしいっていうことがもしあるとしたら、やっぱりそれを分けて聞いてもらった方がいいと思うんですよね。実際のところどうですか。そういう託児所的に部活動を考えている保護者はいるんですかね。
大村委員長 黒田委員	でも実際やっぱり部括が減っているので、困り感はやっぱりこういうSNSとかゲームにそういうところに時間を使ってしまう子どもが多いからっていうので困っている親御さんやはいますよね。部活とかで1日疲れてくればそんなことをやる時間もなく、疲れて寝てとなると思うんですけど、自分たちも多分そういうふうには育ってきたと思うので、そういうイメージで、自分のこどももなってほしいっていう思いはある方もいるんじゃないかなと思います。
鈴木康委員	今までみよし市は全員参加制だったんですか。部活動は。基本的には学校によるかもしれませんが、基本的にはそうですけど、地域のスポーツクラブに行ければそれでもOKなので、入っていない子もいます。
	親としてはもう預けちゃったらもう私知らないよというところがあって、私も前回言ったんですけど、部活動じゃなくて今地域総合型スポーツクラブっていうのもあるので、そこだと結構親と子と一緒に楽しめるスポーツがあるので、そこで同じようなスポーツを。私は今、なかよしクラブというところでショートテニスってことでウレタンボールのテニスの一種を教えていますけど、親と一緒にやれると家に帰っても、そのことで話題が一緒になって喋ることができるので、親と

大村委員長	子と一緒に同じようなスポーツ、できるようなスポーツを楽しんでもらうとありがたいなと思うんですけど。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	さっきの全員加入制については、学生によっては、すごく例えば嫌だったっていう思いを強くもっている大学生もいますから、そのことでかえってスポーツが嫌いになっちゃう、学校もなんか嫌いになっちゃうっていう。今、全員加入じゃない方法でやりたいことがやれるような、そういった部活動になっていくとしたらそれはいいことだなんて思いますね。
岡田委員	ありがとうございます。部活動の方が中心ですけどもそこから続けていただいても結構ですし、他のところもいっぱい出ているんですから、いろんな視点でご意見出していただけると大変ありがたいです。はい、どうぞお願いします。
大地委員	活動がないと遊んでしまうっていうのはちょっとびっくりしたんですけど、続きなんですけど、私は部活動がないと、思春期に発散する場所がないから続けてほしいっていう気持ちはあったんですけど、こう言った考えの方がいると思うんですね。私の周りだとこういう考えの同世代の方がいなくて、体を動かして発散の意味で部活がなくなっちゃって残念だねって話をよく聞いたのでちょっとびっくりしました。多分ゲームやりたい子はゲームとは限らないと思うんですけど、部活やった後でゲームやると思うので、やっぱりここはつながらないのかなと思います。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	今のご意見で、私、電話相談っていうこともやらせていただいているんですけど、その中でいろんな心の問題とかいろんな思春期の問題とかを抱えている子に、運動何かやっているのって聞くと、サッカーやっているとか、野球やっているという答えが返ってきたときにすごい私は救われた思いがして、そのときは頑張っているとか集中できるとか言ってるんで、やっぱりスポーツってそういうところが魅力ではないかなって思って、そういう場があるっていうことはすごく大事だなっていうことを中高生と話しながら感じるのので、やはりそういう場をこれからも準備していくというか、あるといいなってことは思います。今の発散っていうところで感じたんですけど、やはりそういうところの面も大きいかなと思っています。
山内学校教育課	ありがとうございます。そういった「みよしクラブ」と言われるこれからの地域クラブの方については、今とりあえずは学校にある部活動を何とかまず地域でもできるような、地域の指導者の方のもとでやっていけるようにっていうところをまず優先していて、その先には第2段階として例えば今ちょっと流行りつつあるというのか、例えばダンスですとか、ニュースポーツだとか、あとは地域ならではのラグビーとか、そういったことも体制が整えて、ニーズがあればやれるんだなっていうところも探りつつ進めているというようなところであります。はい、どうぞ。 擁護をするじゃないですけど、教育委員会山内といいます。

地域連携担当	その前に大村先生が最後に言われたのは、男の人が働き方を変えて、こういう活動をとおっしゃったのは僕にとっても印象的に覚えていて、活動についても同様、土日なら見に行こうかなっていう、さっきPTAのことを言われましたけど、地域参加をどう、みんな巻き込んでいくか、自分のコミュニティスクールの担当なので特にそれを思って、部活動のことも同様で、この4番を擁護するわけじゃないですけど、ある地域では、小学校から部活動がなくなった、中学校に行ってもうえらいからやめようって言って辞める方が増えた。ただゲームだけならいいんだけど、そんなことやって犯罪だったりっていうことが実際に増えているというふうに言われたのを県の会議で聞きましたので、こどもの受け皿って言葉をちょっとこぼれたものを拾うような言葉ではあんまり好きじゃないんだけど、こどもが活躍できる場を作るっていう意味では、この言葉の意味は確かに直さなければいけないけど、そういうことを考える必要があるなということは思いました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	どうもありがとうございます。どうしても今スポーツの話で絞られていますけども、スポーツに親しんですごくそれで今アスリートの子、専門的にぐっと特化して行く子もいれば、全く運動しないと体育の授業しかないっていうような子と二極化しているっていうのがここ数年顕著になってきていて、なおのことそういった部活動という形で従来通りのものを全くなくしてしまうともっとそれが進んでしまうのかなっていうところに危惧をしているところがあります。さっきおっしゃられたみたいに、運動、持っているエネルギーをうまくプラスに変換していくんですか、高めていくっていうのも必要ですし、実際自分も現場にいたときにも部活動が初めの一歩になってそこから、自分ってこんなことできるんだという可能性に気づいてそこからどんどん自分から前向きになったっていう子たちもたくさん見えますので、専門的なところっていうのは本当に幅広くとっつきやすいところっていう場を作っていかなくちゃいけないのかなと感じたところです。ありがとうございます。またそろそろ次の内容に進んでいきたいと思います。続いてこちらの基本理念人間像っていうところで、教育委員会としてもいろいろ検討しながらこれまでのことも踏まえて、基本理念ということで、今A案B案ということで作っているところですので、今、軸で考えたのはA案の方ではあるんですけども、このままというふうにはまだ考えていなくて、こっちがいいんじゃないかとかこういった言葉を盛り込んだ方が、先ほどありましたけど、思いやりとか優しさとかそういったキーワードになるようなものもあったのでこういったものを入れていったらどうだっていうようなことも合わせてですね、基本理念のところを中心にご意見をいただきたいと思います。こっちがいいかな、A案かなB案かな、あるいは他のことかなっていう、いろんな形で結構ですので、出していただくとありがたいです。いかがでしょ

黒田委員	うか。 A案の方でもいいかなと思うんですけど、一般の方が見て協育とか共育って言葉を理解されるかなとその中身がよく分からないんじゃないかなっていうふうに思って、これをもしつけるんだったら、こちらの方に協育とはこういうことですよとか、共育とはこういうことですよっていう定義的なものがあつた方が理解しやすいのかなと。前回のやつは、それはなくても分かりやすい言葉だったので、学んで人とつながるっていうすごく分かりやすかったので、学びを楽しんで人と人をつなぐ、そういうことと、基本理念が分かりやすいんですけど、このA案だとちょっと説明をしないといけないかなと、そうなると分かりにくいので、一般の方がどう思われるかが心配かなと思いました。
大地委員	このA案で出ているんですけども、次の項目に入ってしまうんですけど、人間像と基本目標のところ、今回、学校教育から、2番目が社会教育、3番目に家庭教育というお話が出てきていたんですけど、そうすると、基本目標のところの1でまた共育と協育がかっこで出てきますよね。これって学校教育に限定なのかみたいな雰囲気、流れ的に出てきてしまっ、そうではないよっていうふうに考えるのであれば、もっと広い意味でこの二つの教育を捉えてっていうところで、やっぱり私もここは定義をきちんとどこかで記載して、協育はこういうこと、共育はこうと考えている上で、こうやって進めていきますよってというのがいるんじゃないかなとこれを見て思いました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	ありがとうございます。これを入れ込むとか、あるいはやっぱりワンクッション、この意味何なのって話になっちゃうので、これを使わないでいってはどうかなんて話も出ていたもので、そういう意見もいただけるとありがたいです。伝わらないと意味がないので。
大村委員長	私も協育と共育は説明があるとふうに思ったんですけども、どちらも必ずしも学校教育だけのことではないはずなんです。協働による育ち合い、協育ですね、もちろん子どもを協働して育てようっていうこともあるけれども、あるいはその地域の中でその学ぶ場をみんなで作りましょうということもあるだろうし、高齢者などのために、そういったその学ぶ場を作っていくっていうこともあるだろうし、社会教育の要素もあるし、共育もそうですよね。これは育ち合いとか学び合いですから子ども同士もあれば大人同士もあれば、あるいは子どもと大人の関係もあるはずなので、その辺をもう少し膨らませていただけるといいかなと思いますね。
黒田委員	前回は学ぶ楽しさで繋いで何をそこから発生するかっていうのは書かれてないですね。そうするとすごく幅が広いんだけど、今回は心豊かに、心豊かなのを目指せばいいのかっていうふうに限定されているので、その部分はちょっと自分も気になって、この心豊かになることがみよしの中の教育の

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	中の最高の目指すものでいいのかっていうところは考えないといけないのかなというふうに思っています。そこにもしそれ以外のものも入れるのだったら、その言葉も来ないといけませんし、いろんなところに心豊かについていう話が出てこないといけないのかなと思います。
岡田委員	そうですね、ありがとうございます。心豊かにだけでいいのかなという話もありますし、そこが全てそれでおしまいにしていいのかとか、最初の説明でもあったんですけど今ウェルビーイングって話も出てきてはいるんですけども、それに通じるような言葉が入ってきてもいいのかなということも、ちょっと皆さんのお話を聞いていて感じたものです。どうぞお願いします。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 岡田委員	生きがいていう言葉を私達世代とか、もっと上の世代の方はピンとくると思うんですけど、こどもはどうかなっていうところが気になりました。つながり合うっていうのも、何とっていうところを入れたいんですけど、うまい言葉が私も見つからなくて、すごく長くなってしまいうところもあるので、気になりました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 岡田委員	ありがとうございます。そうするとやっぱりBよりはAかな、でもどうかなみたいな。 でも語呂的にはAぐらいの短さでいいとは思うんですけど。この言葉の説明を補足で入れるとしたら難しい。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	そうですね。長さも結構最初に作っていく中で、すごく長々としてしまっていて作ったんですけど、まだまだ迷っているところがあるので、こんなキーワードで、さっきもありましたけども、どうだっていうのも教えていただけるとありがたいです。
大村委員長	確認ですけど、心豊かというのは、ウェルビーイングを日本語にしたものだっていう理解でいいですか。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	そこら辺までは、説明でそこまでがくつつけるかっていうとちょっと、カチっとはきていないのかなっていう僕の印象なんですけども、このあたりの言葉の使い方もまだまだ練り切れてないです。どうですか、印象としては。
大村委員長	だから心豊かについていうふうに一般に使われていると、マインドの場合だけだとすると教育、つまり人格の形成としてはちょっと狭いんですよ。そしてウェルビーイングっていうふうに理解すると総合的ですのでいいかなと思うので、どういう意図でこれを選んだのかなっていうのはちょっと聞きたかったんですね。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大地委員	言葉遊びになってはいけないなと思いながら、ちょっとそこら辺がまだ定まってないところですので。 ウェルビーイングっていう言葉は、今一般社会においてどのくらいみんなが親しみをもっている言葉であるとか、わかる言葉であるとか、ちょっと最近をよく出てくる、意識していればよく出てくると思うんですけど、社会一般として、どうなんですかね今。

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	最近僕らも使い出したって、僕のここら辺のまだまだ多分一般社会的には聞くなぐらいなところなのかもしれないです。
大地委員	でもそれを知る機会になるっていう考え方でいけばいいのかなと思いますけど。
大村委員長	国際的に使われてきて、それを日本も使うようになったっていう段階ですよ。
山内学校教育課 地域連携担当 大村委員長	なんて訳すんでしょう。 訳だからいろいろあるんですよ。だから難しくて。実は福祉の分野では早くから使われていたんですよ。ウェルフェアではなくてウェルビーイング。福祉を受けるんじゃないくて、よりよく生きることを主の目的として、そういうことなんですよね。よりよく生きるっていうのは非常に多義的ですよ。
山内学校教育課 地域連携担当 黒田委員	いい言葉じゃないですか。30年ぐらい前から言っていましたよね。ウェルビーイング。 でもここにウェルビーイングがもし乗っかかるとまたウェルビーイングというのは何か、という説明が必要ですよ。よく分からないなって、何だろうっていうふうに分かんなくなっちゃうんですよ。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	ありがとうございます。基本理念の方もありがとうございます。先ほどもちょっと関わって人間像の方に出ていたんですけども、それをこっちが理念の方が定まってないところで次いけるのかって話もあるんですが、ちょっと行ったり来たりしながら作っていったらいいなというふうに思います。続いて人間像の辺り、落ちてないかとか重なっているんじゃないかとか足した方がいいんじゃないかとか、いろんなところがあるのかなと思います。こちらもいろいろご意見いただけるとありがたいです。
黒田委員	たくましくっていう言葉がちょっと小学校の目標に感じてしまって、なんか今だとしなやかにとかそんな言葉がいいのかなって思いました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	しなやかに。
黒田委員	したたかにはまたちょっと違う。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	レジリエンス。
黒田委員	そうですね、そんなイメージ。たくましくっていうとなんかすごく力強い感じがするんだけど力強くなくても本当にしなやかに上手に生きていくっていうのが大事なのかな。生き抜くもちょっとなんかすごく強い言葉だなと思いますけど、ただ生きるだけではちょっと物足りないなとも思いますけど。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	たくましく生き抜くだと、バチッとすごい感じで、しなやかに生き抜くだとまたそこはセットで検討が必要かなって。確かにそうですね。
黒田委員	生き抜くでも、生き続けるだけでもいいのかなと思いますが、生き続けるは生きることができるでもいいのかな。

山内学校教育課 地域連携担当 大地委員	それこそウェルビーイングですね、よりよく生きるっていうことだから。 先ほどもちょっと触れたんですけど一番上の項目が学校教育中心としたところ、2番目が社会教育を中心としたところ、3番目のところを説明していただいたときに、家庭教育と地域教育みたいなことを言われたんですけど、家庭教育の匂いがしないというか、家庭教育をどうやって考えていくか、切り込んでいくかってすごく難しいところだなって、外からなかなかできるところじゃないのと思うんですけど、この間、教育講演会、みよし市の教育委員会がされたのを聞かせてもらったんですけど、そこでも、ここの部分はもう家庭教育の部分ですよって講師の先生がおっしゃった、睡眠時間をたっぷりとるとか、そういうことがすごくこどもに大事ですよってことをおっしゃられた。家庭でやることなんですけど、なかなかこっちの教育委員会とか教育とかいう立場から、そのところが行けないところだなっていうことは感じているんですけど、どこで行くかっていうのは私もどこで行けるかなと考えたときに、学校で言うと、保健委員会とかでいろんな生活習慣のことを考えることもありますよね。睡眠時間はどのぐらいとか、どんなにそれが大切なことかという話がそういうところで扱うとかはしているので、そういう部分を取り上げて話を聞く機会がどっかで持てるといいかなということ进行いますので、家庭教育について、こんな大事なんだって私達が思っても、そこのお母さんは全然思ってたなかったら、こどもたちに反映されていかないと思うので、でもそこを皆がそうだよってということが広がっていったら、家庭教育も少しずつ下支えになるというか、さっきの中学校の部活の話にも出てきたんですけど、ゲームやってばっかりとか多分家庭の今の一番の大きな問題は、ゲーム時間をどうするかとか、SNSからこどもを切り離すのはどうするかっていう多分すごい大きな問題だと思うんですけど、そのあたりをどこか助けになるというか、この中にあるといいかなということを感じるので、家庭教育という部分につながるような言葉とか、方向性があるといいなということを思いました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	ありがとうございます。そうですね、おっしゃられる通りで、地域の教育っていうのはこの中にも入っているけど、家庭の匂いはしないんだっておっしゃる通り、家庭の力っていうかね、地域の負担だけじゃなくて、家庭の力っていうんですかね。やっぱり協働しながらやっていかないといけないっていうのは非常にニーズを感じていますので、そういったところは盛り込んでいきたいなと思います。
岡田委員	伝統を未来につなぐ人っていう言葉が、個人的にはすごく好きなんですけど、地域より社会が上なのかな、あの真ん中のところに入ってくるんですかね。社会教育。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	社会教育、非常に幅広いというのがありますね。これもどういうふうに示していくかっていうのは難しいところです。

岡田委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	真ん中のところがやはり、この社会や地域と、先の生きがいをといるところがつながっていないような気がします。 ありがとうございます。確かにそうですね。作ったときにはまだ迷いながら少しずつできてきたかなと思いながらやはりいろいろな方に見ていただくと、いろいろなところから教えていただけて非常にありがたいです。時間もありますので次のも踏まえながら基本目標ってというような形をとっているわけなんですけど、先ほど、共育・協育って話についても出ていたんですが、そのあたり、その1、2番とのつながりも含めていかがでしょうか。3番目のところで家庭はないなっていう話ですね。今の話を聞くとそこが見えてきました。ありがとうございます。
黒田委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	愛着とか誇りは高めるものなんですか。誇りをもつは言うかなと思うんだけど。愛着ももつって言うかな。あんまり高めるって言葉は聞かない。でもすごく思いは分かります。 あるんじゃないかってもっと強い思いをもってほしいっていうところがあるんですけど。
黒田委員	誇りをもてたらもうそれでいいかなと思っちゃうんだけど、それさらにそこまで踏み込むのはもっているっていうのは前提になっちゃうと思うんですけど、ふるさとみよしっていうのは、皆さんがもっているものですよね。
大村委員長	基本目標の3は、ふるさとみよしへの愛着と誇りを高めるというのは、人間像についてですよね。基本目標とするにはなじまない気がしていて、僕の理解では、こどもと大人の育ちを支える家庭づくり、地域づくり、それをするのが基本目標の3かなと思ったんですよ。その方が家族をちゃんと協力、協働して家族を作っていく、あるいは地域社会を作っていく、そのことによってまた人も育つんですけども、そのことによってこどもや大人の育ちを支えていくんだっていう、それが基本目標の3かなという今までのものも、僕は今までのものも、そういうイメージでふるさとみよしをつくる、市民を育てるというのは、そういう家庭づくり、地域づくりができる市民というイメージを僕はもっていました。
黒田委員	目標1番は育てるのは誰が育てるんですか？主語の話なんですけど、整えるがどうしてもこれは行政の話なのかなっていうふうになってしまって、これは普通の方からすると一歩引いちゃうかなというふうに思います。2番だけちょっと異質な感じがしました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 黒田委員	1番の育てる主語はどこなんだということですか。 これは何となく分かります。一般市民。こどもをもってればだし、関わっていればなので、ほぼ広く皆さんがもてるから目標として。でも2番は多分持っていないなと。
大村委員長	2番の環境も行政の役割も大きいですけども、団体を作って運営していくっていうのは、民間の仕事だと思うので、必ずしも行政だけではないと思うので。

山内学校教育課 地域連携担当 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	整えるという表現が固いかな。みんなで作るみたいな言い方にしてはどうか。
黒田委員	いろいろな施策とかそういうがあるので、何かそういう言葉が出ちゃったら整えるとか何か組織を作るだとか、そういう場を作るみたいな感じなので、そういう部分もあり環境設備を作るっていうのも大事ですし、整えていく必要もあるんですけども、その辺はやっぱ、確かにその通りですね。 あとは、裏面のところにこんなふうにして基本理念があって人間像があって、基本目標があって、基本目標というのを年代別の位置づけとしてこんなふうな構成になるのかなっていうような感じで、たたき台を作っていたところなんですけれども、このあたりを見ていただいて、視覚的にイメージしやすいものなのか、分かりにくいとか、そういったこともあれば教えていただけるとありがたいんですけども、いかがでしょうか。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	イメージでいうとこの3は、全部ひっくるめている土台の部分だなって感じがすごくして、黄色い枠の中にこれとかこれがあって、そんなイメージが黄色の中で家庭教育とかそういうのも全部含めて、そういう中にこういうのがあるようなイメージをしました。そうすれば家庭教育も入れやすいなと。
大村委員長	そうですね。ありがとうございます。いかがでしょうか。 こういうふうに図にすると逆に落ちているとか、分かりにくいとかいうのも見えるかもしれないですけど。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大村委員長 岡田教育部次長兼 学校教育課長	ちょっと気になったのは、図のところで幼年・児童期が3歳から始まっているのは、0、1、2歳はどう考えるのでしょうか。 0、1、2歳のときは、家庭教育と考えると0歳も、当然ながら入ってくるんじゃないかっていう話ですよ。 社会教育としてもそうですね。
大村委員長 岡田教育部次長兼 学校教育課長 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	こども計画で作っているところであるので、そちらはこども計画の方で見ていくっていうので除いたところがあるんですが、ただこどもっていうと本当は18歳、というところがあるので、ちょっとかぶるところもあるので難しいけど、3歳までのところはこども計画の方で見て行きましょうっていう、考えをしています。 行政的な割り方をされた。 はい。こども計画を新しくつくります。
	ここには全部示されてないんですけども、今、教育振興基本計画っていうもので取り上げてやっているんですけども、また刷新していく段階では、説明でもあった総合計画との繋がりだとかこども計画との繋がりとか、あとは教育委員会の中でいうとスポーツ関係とか社会教育そういったところとの絡みだとかっていうところもつながりがどうなってるかっていうのも示せるようにした方がいいという話は出ていました。

大地委員 岡田教育部次長兼 学校教育課長	今、おっしゃられたようにこども計画は0から3歳の計画になりますか。 こどもなので18歳までのところなんですけど、今回決めるにあたって教育委員会が策定するものですから学齢期のところからは当然、内に含んでいかななくてはいけないと思ってるんですけど、そこまでのところで、未就学、未就園のところはこども計画の方で主として見ていきたいと思いますというように、今ねらいでいるんですけども。
大地委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	3歳より上は全部入っているのに、すごい偏っている感じはする。 でも三つ子の魂じゃないですけどもそのことを考えると家庭教育ってまさにそこだなというふうに思えたりもしますし、その部分をどうやってどんな感じにするのかっていうのは。
大地委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 黒田委員	高齢者の計画など他にもあるんですけど、でも高齢者の分も入っていますよね。 はい。今ここに入っているのはどうしようかって話も話題にはなっていて。 こうやって、かちっと分けると、どうしてもそういう話題になっちゃいますよね。だからこういう感じでぼやかして、ぼやとした感じがしていいなって感じがして、土台にこれがあって、そしたらこのイメージ図もそれに繋がってくるかなという感じで。
大村委員長 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	ハイハイしてるとやっぱ0～1歳ぐらいですよ。実際中学生に、赤ちゃん抱っこ体験という形で赤ちゃん中学生の育ち合いをコロナ前は結構やっていましたよね。児童館なんかも小学生と赤ちゃんとかやっていますし、そういったことをやっぱ視野に入れてもらった方がいいので、入れていただいた方がよいのでは。 確かにおっしゃられた通りで、赤ちゃんの体験ですとか、そう考えている赤ちゃんもそうだし、中学生もそこで学ぶところがあるのでそうすると、確かに入ってないなって思いますね。 最後にまた前の方に戻ってちょっと言い残しちゃったっていうのがあったらせっかくなのでいただいて持ち帰りたいと思うんですけども、いかがでしょうか。 本当に今日教育委員会の中でしゃべっていたときでも、たたき台をあーだこーだとやっていってとりあえず形は作ったんですけども、こうやってまた出して見ていただくと、またさらにいろんな視点からアドバイスいただけて本当にありがたいです。まだまだ次回も多分こうやっていく中で、また探っていく状態かなと思いますけれども、お気づきのところはどんどんいただけるとありがたいです。遠慮なくいただければと思います。どうもありがとうございました。

大村委員長	それでは時間になりましたので、全体会を始めたいと思います。最初にAグループ、次にBグループ、Cグループの順番で各グループ2分程度で協議の内容をご報告いただきたいと思います。
長谷川学校教育課主幹	<Aグループ発表> Aグループは3点のことについて話が出ました。 まず一番初めの方で大村先生もおっしゃってみえた小学校に期待することと、こどもに期待したいことのところで、やはり、いろんな意見を選べるようにした方がいいんじゃないかという意見がありました。それから自己肯定感というところで話があったんですけども、15ページの質問のところ、役に立ちますかとかいうところですけども、こどもたちが自分のことをどう思っているのか、自分の状態が今わかっているのか、そういうところが測れるような質問になるといいんじゃないかというところ。それがわかると、一人一人の状態に合わせた支援に繋がっていくのではないかとということで、具体的に今の自分が好きですかとか、それはどんなところが好きですかというところを聞いていくと、こどもたちが、どこで認められたら嬉しいのかというところもわかり、自己肯定感っていうのは、自分で育むものでもあるけれどもやはり周りの人から育まれるものでもあるから、どこで認められたいかがわかると、周りの人もどうやって声かけたらいいのかなっていうところもわかるのかなというところが話題になりました。それから保護者に対して、ありがたいって言っていますかという形で、親も自分の姿を見るというか、そういう質問も大事ではないかという意見が出ました。 それから市民の方が協力できることはないかとたくさん答えてみえるというところで、でもいきいきクラブの交流があったり、ボランティアとか福祉施設の方とのつながりがあったり、それから行政区の行事にこどもたちが参加させていただいて、その地域の方からよかったよって推薦してもらってそれを学校で賞を与えているというような活動もできているよという話がありましたが、やはりいきいきクラブもボランティアも縮小というか、入らない方もやはりいるっていうこと、働いてる方が増え、これからも増えていくということで、そういう面で場所がないところでもあるけれども、こうやって関わることを大人も学ぶ場として、社会教育の視点をもって学校が核として進められるといいんじゃないかという意見も出ました。この辺りの方たちはもう繋がりをもっていただいているという意識がある。それから学校に繋がりがある方も基本的には学校に誰々さんは大丈夫かなって見守ることができているんですけど、繋がりがない人をどうやって巻き込むかっていうところで、共育、協育の姿を具体的に示していく必要があるんじゃないかというような話になりました。

酒井学校教育課主幹	それから新計画の方についてちょっと時間がなくて、2つしかお話できなかったんですけども、A案の方がいいなっていうご意見が多かったです。対象は両方とも人に対してで、みんな育てていくっていうところが基本というところでA案については、ウェルビーイングの思想を取り入れていくといいんじゃないかということ。共育、協育が1人じゃないっていうメッセージにもなり、大きく捉えられていいんだけど、この言葉の説明は必要なんじゃないかというお話でした。それからB案の方もわかりやすくっていいんだけど、目指す人間像と同じような言葉も含まれてるので、こちらではどうかというような案が出ました。 それから人間像については3つに分けたことはいいというところでありました。2点出たのが、市長のマニフェストに挑戦という言葉があったので、大人も子どもも挑戦するというところに入れたらどうかというご意見と、それから3つ目にふるさとの魅力ってあるんですけど、そのふるさとの魅力って何だろうなっていうところで、ものに対してではなく、自己肯定感と絡めて、自分も人も大事にしているのがふるさとの魅力でもあり、自分の生きざまっていうところも魅力であるので、ふるさとしていうよりは、みよしのっていうふうにした方がいいんじゃないか、自分もみよしの1人だし、離れた人も自分もみよしの1人だったと思えたらいいんじゃないかというところで話が終わりました。 以上です。 <Bグループ発表> B班になります。まずアンケートについてなんですけれども、B班の方では8ページ20ページから12ページのことが話題になって取り上げられました。8ページのことについてなんですけれども、きめ細かな指導がという話になったんですけども、そのきめ細かな指導は学校はやっているんだけど、それが結果として表れていないとなれば、保護者が求めていることは何なんだろうっていうところが1つ話題になりました。20ページの読書推進については、図書館に行っていないことが数字として出てたんですけども、やはり行っていないのは、サンライズに行くまでの距離の問題なのか、それとも休みも忙しいのか、もしかすると電子書籍化したことによって図書館に行かなくても、本に親しむことができることも原因なんじゃないかというような話題になりました。 学校の図書室については、こどもたちの要望に合った本になっているのが一番なんですけれども、そこに少し蔵書率というものが関わっているということも話題になりました。12ページの部活動についてなんですけれども、ここは高校とのずれがあるなっていうのが話題になりました。高校の先生がおられるので、保護者が生徒に部活をやってほしいと言うのであれば、高校としても協力できることはしていきたい、そ
------------------	--

中井学校教育課主幹	ういうことができるものがないかなというふうで、これから考えていくことの1つになりました。アンケートの話題になったのはこの3つなんですけれどもやっぱりアンケート結果を、やっぱ様々な角度からちょっと分析する必要性があるかなあというのがB班での結論の1つかなというふうに思います。 続けて、基本理念、目指す人間像、基本目標についてなんですけれども、すべてのこの3つのことに関して共通していえるのは、やはり市民に浸透する形、文言になるといいというのが1つ。それからまとめの方もイラストを入れるとか、目に入るような目に入ってわかるような形にできるといいのかなというのがこの3つについての最終的な結論かなというふうに思いました。例えば基本理念でいうと、言葉だけを見るとやはりA案がいいだろうというふうなんですけれども、でももっと心に響くものにできるとプラスインパクトがあるような形にできないかなという、例で言うと、みよしの特産物って言ったら、柿、梨、ぶどうと大分答えられるようになってきているでしょうっていうところに、みよしの教育はって言われたらこれっていうふうな、そんなような形にできるとよりいいんじゃないかなというふうな意見が出ました。 以上です。 <Cグループ発表> Cグループです。よろしくお願いします。 アンケートについては主に3点です。8ページの先ほどの回答の設定の仕方については、回答を3つにしたからこそ分かることもあるので、知りたいことによって回答方法の使い分けというのが大事になってくるのかなというご意見をいただきました。また、思いやりや優しさというキーワードが自己肯定感と一緒に出てくるので、これが基本理念のこちら側の方に、上手に反映させられるといいのかなというご意見をいただきました。 2つ目は18ページの生涯学習のところですけども、先ほどのBグループの様々な角度からの分析というのもあったんですけども、やはり世代別の統計を示すことによって、こどもとなるとどうしても学歴という形になってしまうので、生涯学習ということを考えるといろいろな世代の方のご意見がどういうふうに反映されているのかという、そういった統計が欲しいなということが挙げられました。 一番、盛り上がったのが部活動のことでした。部活動については、こどもはどちらかというと楽しく、おうちの方は5番の(4)部活動がないと遊んでしまうので部活動に打ち込めるにして欲しいという設問が、ピントがちょっとずれてしまって、おうちの方のご意見がうまく吸い上げられなかったというご意見もあったんですけども、こどもは楽しく、おうちの方は学校やクラブチームの人に預けてやってもらう、そういった発想が見えてきてるのかなということで、学校、家庭、
------------------	---

	地域がともに育っていくという考え方で部活動のことが考えられるといいと。特に保護者の方にそれをどう伝えていくのかというところが一番の課題かなという話になりました。 みよしでは地域総合型スポーツで親子がともに運動して汗を流すという活動も取り組んでいるので、そのようなところを紹介しながら、部活動というところ、どうしても昭和の部活動というイメージになりがちなので、そこをどう説明していくのかということが課題なのかなということが挙げられました。新計画の方については、A案の方がキャッチーで、短くてパッと入りやすいというご意見をいただきました。 その中で協育と共育という言葉が出てくるのですが、先ほども分かりやすさとか説明とかというのがありましたが、この言葉をしっかり定義をすることによって、この柱がしっかりしてくるのかなと。 この共育、協育というのは、学校教育だけではなくて生涯における教育においても、共育、協育である、そういう設定をするというのかなというご意見をいただきました。 また基本理念の最後の心豊かについていう言葉がウェルビーイングの位置付けという意味合いでの心豊かについていう形で言葉が上手に設定されると、心の面だけが豊かになるのではなくて、そういったところが上手に定義付けされるといいのかなというご意見をいただきました。 目指す人間像については、この3本柱が学校教育、社会教育その次のここが地域、家庭教育かなあという、Cグループでは認識だったんですけども、その中の家庭という部分がどうしても伝わりにくいというのか、保護者の方のアンケートの回収率もそうですし、家庭にもやはり協力して一緒に育てていこうということが上手に言葉として発信できないと、この土台というものが崩れてしまうのかなと。 課題としてはこの家庭に対してどういう言葉を使って一緒にやっていこうよということを伝えていくのかっていうところが大事だということをご意見いただきました。 基本理念に関しても、基本的には一緒にこの3番目がやはりぼやけてしまっているんで、ここの土台になるところをしっかりと検討していくとよいというご意見をいただきました。すいません。以上です。
大村委員長	ありがとうございました。 まさにこのグループ協議の中で熟議といいますか、基本理念についてあるいは人間像、そして基本方針についてですね、いろいろ議論をいただきました。そうしたものがその前半のアンケートで見えてくるものとどう繋がっていくのかっていうことは少しまた時間が欲しいなという感想をもちました。 先ほど教育長さんから、アンケートについては、さらに調査をするんだというお話がありましたので、ぜひこのアンケートで少し課題であるとか、やはり少し見えてきたものを

もう少しクリアになるようなそうした調査をしていただけたら、また皆さんの方からこのところをもう少し調査して欲しいというご意見をいただきたいと思います。

私の方からは少しコメントをさせていただくとすると、人間像については、少しまだちょっと混乱があるかなと思って聞いておりました。先ほどCグループでも議論してましたけども、人間像を学校教育、社会教育、地域教育で分けて考えておられましたけれども、人間像というのは、1人の人格のモデルなので、あんまり学校教育ではこうだ、社会教育ではこうだっていうふうにならないはずなんですよ。ですから、私たち大人として、このみよしに生きるものとして、こんな人間になりたいとこどもたちもこういう人間に育って欲しいっていう願いを表現するところだと思いますので、3つに分けた方がいい場合もあるかもしれませんが、1文で書かれた方がいいのではないかという感想をもちました。

先ほどCグループの方で報告でも、紹介していただきましたけども、基本目標のところの3がなかなか議論として固まっていけないなっていう思いもありますが、私が先ほどいった意見を少し述べさせていただくと、基本目標の1はこどもを育てるためにどうするんだっていうことで地域ぐるみで育てるんだっていう目標ですね。

基本目標の2は、大人の育ち、一人一人が地域の中で育っていくために、その環境を整えようと、それが行政だけの目標にならないかっていうご意見もありましたけども、地域の中で団体を作ったり、活動を起こしていったりというのは、市民一人一人がやっていくことですので、これは行政と民間、市民との協働ということで考えていただくといいのではないかと思います。

基本目標の3ですけども、ふるさとみよしへの愛着と誇りというと、これは人間像の中身になっていくんですよ。基本目標としては少し違った表現があるべきではないかというふうに思ってます、私としてはこどもの育ち、大人の育ちを支える、家族づくり、家庭づくり、地域づくりを目指そうというのが基本目標として掲げた方がいいのではないかと、それに向けてそうした家庭づくり、地域づくりをする中で、こどもや大人の育ちが支えられるんだっていう構造ではいかがでしょうかというご意見を述べさせていただきました。少しいろんなご意見が出て、非常に議論としては非常に豊かになったかと思いますが、これをまとめられる事務局の方はまたちょっと苦勞していただければいけないなというふうに思いますが、しかし、こうした議論がやはり計画の豊かさをつくっていくんだというふうに思いますので、ぜひその辺は事務局の方に期待したいというふうに思っております。

それでは今日の協議はすべて終了したかと思いますが皆さんの方から何かございますでしょうか。よろしければ、進行を事務局にお返しいたします。

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 事務局・多治見	大村先生どうもありがとうございました。 では今後の予定について事務局より説明をします。 お願いします。 要項の表紙7番その他で書かせていただいております。 今年度最後の第4回教育振興基本計画推進委員会を令和7年 2月26日水曜日、午後2時から6階、601、602会議室で行います。 その時には本日ご意見いただいたものをまとめ、これでい きますということで報告させていただきたいと思っております。 事前にもしかしたら、これで考えておりますが何か意見 いただけますかっていうことを郵送かメール等をお願いする ことがあるかと思いますが、その際は御意見のほどよろしく お願いいたします。 以上です。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	では、以上をもちまして第3回みよし市教育振興基本計画推 進委員会を終了させていただきます。 最後に例の交換を行います皆様ご起立ください。 一同礼。 ご着席ください。 どうもありがとうございましたでは交通安全十分気をつけ てお帰りください。ありがとうございました。